

日本教育学会  
第82回大会プログラム  
東京都立大学 法政大学

2023年8月24日(木)・26日(土)・27日(日)

The 82nd Annual Conference of Japanese Educational  
Research Association

Tokyo Metropolitan University  
Hosei University

August 24th, 26th, 27th, 2023



# 日本教育学会 第82回大会プログラム

期間 2023年8月24日(木) 26日(土) 27日(日)

会場 東京都立大学 南大沢キャンパス

## 24日(木)オンライン

一般研究発表  
テーマ型研究発表  
ラウンドテーブル  
社員総会(学会理事会)

[25日(金)移動日]

## 26日(土)ハイフレックス

課題研究 I  
総会  
公開シンポジウム I

## 27日(日)ハイフレックス

公開シンポジウム II  
課題研究 II  
課題研究 III  
若手交流会

## 日本教育学会第 82 回大会のご案内

日本教育学会第 82 回大会実行委員会

委員長 荒井文昭

日本教育学会第82回大会は、東京都立大学南大沢キャンパスを会場として、2023年8月24日(木)、1日空けて26日(土)、27日(日)にハイフレックス方式(オンラインと現地会場)で開催します。

今回の大会は、東京都立大学と法政大学との合同実行委員会方式により開催いたします。共同開催のメリットを活かしながら会場校としての役割を担ってまいります。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

開催方法は第81回大会のやり方にならい、1日目(8月24日)はオンラインのみで「自由研究発表」(一般研究発表とテーマ別研究発表)と「ラウンドテーブル」を開催します。そして次の日(25日)に現地(東京都立大学南大沢キャンパス)への移動日を設けて、二日目(26日)と三日目(27日)は現地会場(対面)とオンライン配信により「課題研究」「シンポジウム」「総会」「若手交流会」を開催します。

「公開シンポジウム」のテーマは、二日目が〈変容する公教育と学習・発達保障のゆくえ〉、三日目が〈「過去」を伝え、教えることは可能か ～歴史と記憶をつなぐ〉です。また、このたびは 126 件の自由研究発表、22 件のラウンドテーブルの申込がありました。

それぞれの会場で、参加者のみなさまが活発な議論を展開できる環境づくりに取り組んでまいります。

今後の感染状況を注視しながら、実行委員会一同、最善を尽くしてまいります。みなさまの参加を、心よりお待ちしております。

### 1. 開催日

2023年8月24日(木) 26日(土) 27日(日)

### 2. 開催方法

オンラインと対面(現地会場)によるハイフレックス方式

※オンライン開催… ……8月24日

ハイフレックス開催… ……8月26・27日

<オンライン会場>

各部会のオンライン参加情報は大会参加申込者に8月18日(金)にご案内いたします。

<現地会場>

東京都立大学(南大沢キャンパス)

住所：東京都八王子市南大沢1-1

### 3. 日程



### 4. 実行委員会および連絡先

実行委員会(◎委員長、○副委員長、☆事務局長、★幹事)

◎荒井文昭(東京都立大学) ○児美川孝一郎(法政大学) ☆杉田真衣(東京都立大学)

★平塚眞樹(法政大学) ★河合隆平(東京都立大学)

連絡先：〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学・人文社会学部

日本教育学会 第82回大会実行委員会

事務局メールアドレス

: jera2023torituhosei@gmail.com

## 目次

### 大会案内

I	インフォメーション	5
1.	参加方法・参加費等	5
2.	現地会場の受付	5
3.	自由研究発表(一般研究発表およびテーマ型研究発表)	5
4.	ラウンドテーブル	6
5.	若手交流会	6
6.	『発表要旨集録』	6
7.	昼食	6
8.	懇親会	6
9.	託児	6
10.	Wi-fiの利用	7
11.	ラウンドテーブル・自由研究発表の報告者・司会者などの皆様へ	7
12.	交通アクセス	8
13.	大会会場一覧	9
II	大会日程	11
III	プログラム	15
1.	一般研究発表	16
2.	テーマ型研究発表	39
3.	ラウンドテーブル	51
4.	課題研究 I	74
5.	公開シンポジウム I	76
6.	公開シンポジウム II	78
7.	課題研究 II	79
8.	課題研究 III	80
IV	学会事務局からのお知らせ	82

## I インフォメーション

### 1. 参加方法・参加費等

大会へは、2023年7月10日～8月14日の間に、「日本教育学会第82回大会」ホームページ（以下、大会HP）に掲載する「参加申込フォーム」よりご登録いただき、下記の大会参加費をお支払いいただくことでご参加いただけます。参加手続きにつきましては、大会HPの「参加申込」ページ（<https://jera-taikai.jp/jera82/participation/>）をご確認ください。

なお、8月24日大会1日目のラウンドテーブル・自由研究発表は、完全オンラインでの開催となります。8月14日までの大会参加申込後、8月18日頃にオンライン参加のための情報をご案内させていただきます。

大会参加費	正会員	一般会員	3,000円
		学生会員	1,000円
	臨時会員	一般会員	3,000円
		学生会員	1,000円

※公開シンポジウム I・II のみの参加は参加費無料

※公開シンポジウムのみへの参加希望者は、2023年7月10日以降に専用申込ページより参加登録をしていただきます(大会HPをご参照ください)。

### 2. 現地会場の受付

受付は1号館1階の110教室で行います。お名前の確認と名札等をお渡しします。京王線南大沢駅から徒歩5分ほどで南大沢キャンパスに着きます。

### 3. 自由研究発表(一般研究発表およびテーマ型研究発表)(オンライン)

発表時間は一般研究発表【A】、テーマ型研究発表【B】ともに一件当たり次の通りです。

個人研究発表 発表時間 25分+質疑 5分

共同研究発表 発表時間 50分+質疑 10分

※共同研究であっても口頭発表者が1名の場合の発表時間は、個人研究発表と同じです。発表の取消が生じた場合でも、発表時刻及び発表順は変更しません。

#### 4. ラウンドテーブル(オンライン)

ラウンドテーブルは、会員の創意で自主的に企画される研究交流・意見交換の機会です。  
8月24日(木)の15:30~17:30に開催します。22件の企画が予定されています。

#### 5. 若手交流会(ハイフレックス)

27日(日)の16:30~18:00に対面およびオンライン(Zoom)のハイフレックス形式で開催します。詳細は学会HP・大会HPをご参照ください。

#### 6. 『発表要旨集録』

『発表要旨集録』は、大会参加申込をして下さった方に、データ形式にて配信いたします。大会参加申込を8月14日までに完了していただきましたら、8月18日頃に大会参加のための各種の情報をお知らせさせていただきます。

#### 7. 昼食

大会期間、キャンパス内の食堂は営業していません。できるだけ昼食をご持参ください。学会会場から数分のところにスーパー、および南大沢駅周辺には食堂、大型スーパーやコンビニエンスストアなどがあります。

#### 8. 懇親会

開催しません。

#### 9. 託児

8月26日(土)と8月27日(日)に東京都立大学の一時保育施設(都立大KIDS)を利用することをお考えの方は、大会実行委員会(jera2023torituhosei@gmail.com)までご相談ください。申し込みの期限は7月31日(月)です。

## 10. Wi-fi の利用

東京都立大学構内では、大学等高等教育機関で相互利用できるキャンパス無線 LAN のローミングサービスである eduroam をご利用いただけます。

eduroamの利用アカウントをお持ちでない方には、事前申込をいただき、東京都立大学内で利用できるeduroamビジター用アカウントの ID とパスワードを配布いたします。

【申込期間】

2022 年 7 月 10 日(月)～8月1日(火)

【URL】

<https://forms.gle/CT7bfKwFM6D3dHSX9>



## 11. ラウンドテーブル・自由研究発表の報告者・司会者などの皆様へ

完全オンラインでの開催となります。8 月 14 日までの大会参加申込後、8 月 18 日頃にオンライン参加のための情報をご案内させていただきます。各部会の開始時刻 15 分前に、オンライン部会にお入り下さい。

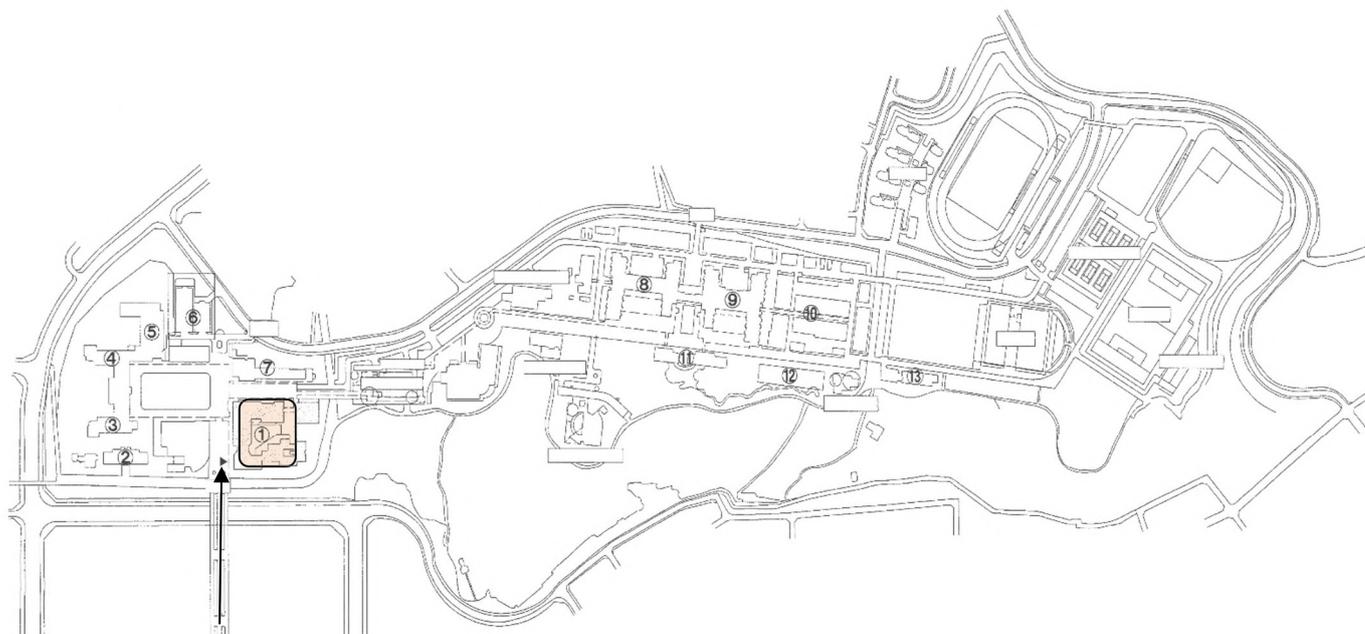
## 12. 交通アクセス

京王相模原線 南大沢駅 徒歩 5 分

※詳細は、東京都立大学ホームページ・交通アクセスをご覧ください。

[https://www.tmu.ac.jp/campus\\_guide/access.html](https://www.tmu.ac.jp/campus_guide/access.html)

※南大沢駅は、新宿駅から橋本駅行き特急利用による最短で 36 分です。

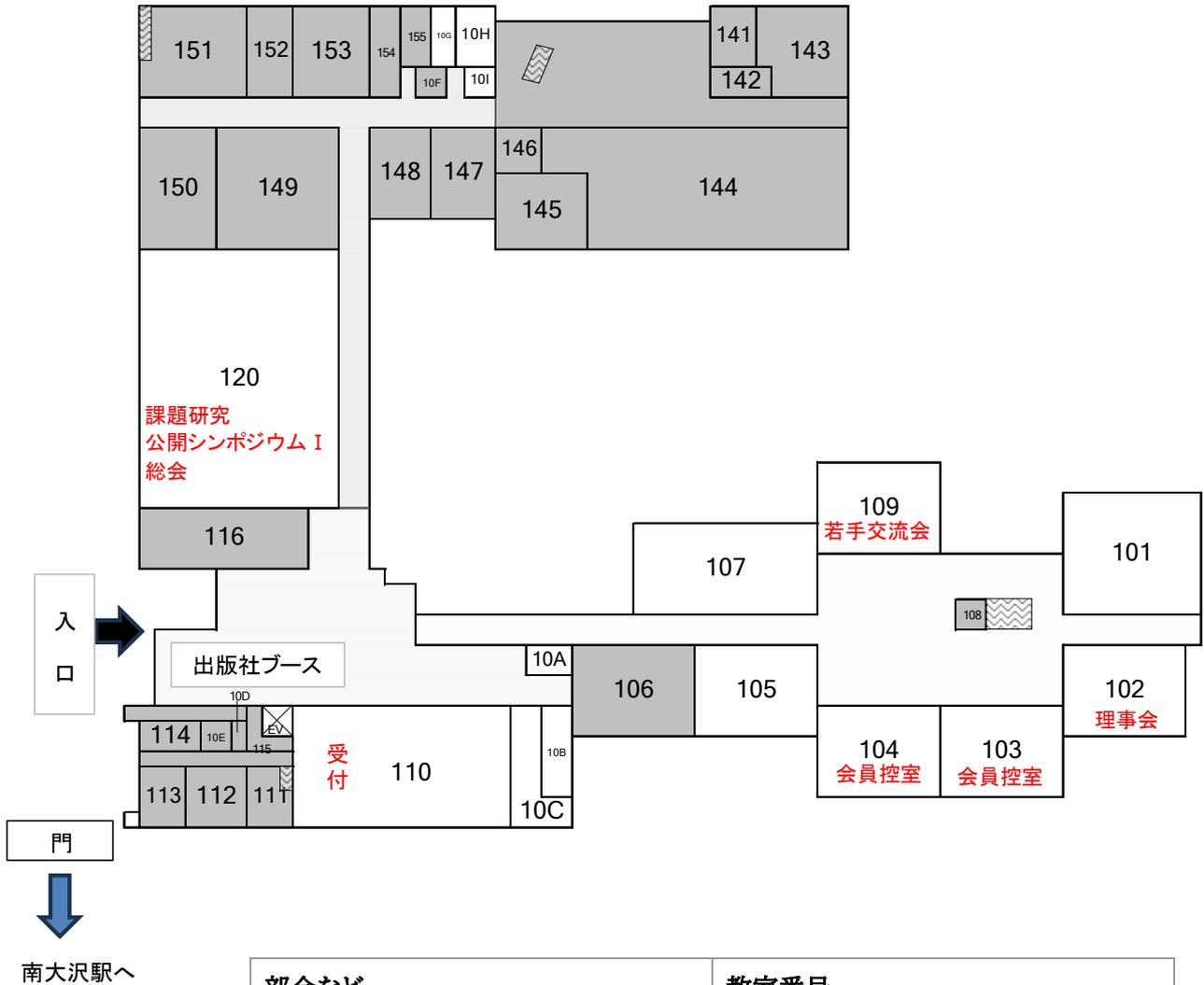


〈京王線 南大沢駅〉

- ① 1号館 教室棟、学生課、教務課

### 13. 大会会場一覧(1号館)

1号館 1階 平面図



部会など	教室番号
大会受付(名札渡すのみ)	110
理事会	102
課題研究 I	120
総会	120
公開シンポジウム I	120
課題研究 II	120
課題研究 III	120
若手交流会	109
会員控室①	103
会員控室②	104
出版社ブース	1階ホール

I インフォメーション

1号館 2階 平面図



部会など	教室番号
公開シンポジウム II	230

## II 大会日程

### II 大会日程

8月24日(木)

自由研究発表 9:00~12:00

	テーマ	掲載頁
A-1-1	教育理論・思想・哲学①	16
A-1-2	教育理論・思想・哲学②	17
A-1-3	教育理論・思想・哲学③	18
A-2-1	教育史①	19
A-2-2	教育史②	20
A-3	学校制度・経営	21
A-4	教育行財政・教育法	22
A-5-1	比較・国際教育①	23
A-5-2	比較・国際教育②	24
A-6-1	教育方法・教育課程①	25
A-6-2	教育方法・教育課程②	26
A-8	教科教育	27
A-10	技術・職業教育	28
A-11-1	幼児教育・保育①	29
A-11-2	幼児教育・保育②	30
A-12-1	初等・中等教育①	31
A-12-2	初等・中等教育②	32
A-13	高等教育・中等後教育	33
A-14-1	教師教育①	34
A-14-2	教師教育②	35
A-14-3	教師教育③	36
A-15	社会教育・生涯学習	37
A-16	教育心理学	38

自由研究発表 12:30~15:00

	テーマ	掲載頁
B-1-1	市民性教育の課題	39
B-2-1	学校のリアリティと教育改革の課題①	40
B-2-2	学校のリアリティと教育改革の課題②	41
B-5	ジェンダーと教育	42
B-7	教員政策	43
B-8-1	戦後教育史の諸問題①	44

## II 大会日程

B-8-2	戦後教育史の諸問題②	45
B-8-3	戦後教育史の諸問題③	46
B-9	教育学の問い直し	47
B-10	子ども問題と教育・福祉	48
B-11	災厄と教育学研究	49
B-12	Educational Issues from Global Perspectives (English Session)	50

### ラウンドテーブル 15 : 30～17 : 30

	テーマ	掲載頁
1	「多様な教育機会」をとらえる視角 —公教育の再編と子どもの福祉(その3)—	51
2	GIGAスクールにおける学校図書館の役割 —タブレットの導入で危ぶまれる学校図書館の活用—	52
3	いまこそ高等教育を無償へ —海外動向から学ぶ—	53
4	ローカルメディアを通して見る1960年代の教育像 —教育言説の地域性と多様性をとらえ、後の実践・政策等との関連を問う—	54
5	教育の中のデータ/データの中の教育 —データ駆動型教育におけるデータの利活用と教師の専門性—	55
6	グローバル化時代の子どもの権利保障 —子どもの思い・思考・探求を保障するとはどういうことか—	56
7	チェンジラボラトリーによる教師の拡張的学習の生成と学校改革の活動 理論的研究 —成城学園初等学校における協働的な教育実験の試み—	57
8	戦後教育史研究の可能性を探る —神奈川県高等学校教職員組合の関係史資料を活用して—	58
9	ジェンダー平等に向けての教育データサイエンス —国際学力調査PISAとTIMSSおよび国際教員調査TALISの独自分析から—	59
10	戦後日本における民間教育研究運動史の試み —個別の民間教育団体の布置関係を描く—	60
11	アメリカにおける教師の専門性の史的変遷	61

## II 大会日程

12	高等教育が育む批判的思考力と創造性	62
13	徳の教育と哲学	63
14	ロシア型STEAM/STREAM教育の構造と周辺諸国への波及 —ロシアのウクライナ侵攻による人材と資源の移動に着目して—	64
15	服装・所持品規定を問いなおす	65
16	「共生」の場はいかにしてつくられるのか？ —学校内外の実践に着目して—	66
17	「授業研究」は教職の高度化に貢献しているか(2) —授業研究の国際的展開と授業の国際比較研究の焦点と課題—	67
18	学びの場のグローバル化を問う —ホームスクールを通して—	68
19	インクルーシブ教育に社会的文脈を導入する —サリー・トムリンソンの観点から—	69
20	コロナ禍と子どもの発達困難・リスクの教育学的検討	70
21	ChatGPT時代の学校教育のあり方 —デジタル・シティズンシップ教育・学校図書館の視点から—	71
22	日本の知財教育学構築の経過と展望 —内閣府による知的財産推進計画をめぐって—	72

社員総会(学会理事会) 17:45~19:45

## II 大会日程

8月26日(土)

課題研究Ⅰ 9:30~12:30

テーマ	掲載頁
義務教育とは何か	74

総会 13:30~14:45

公開シンポジウムⅠ 15:00~18:00

テーマ	掲載頁
変容する公教育と学習・発達保障のゆくえ	76

8月27日(日)

公開シンポジウムⅡ 9:00~12:00

課題研究Ⅱ 9:00~12:00

テーマ	掲載頁
「過去」を伝え、教えることは可能か ～歴史と記憶をつなぐ	78

課題研究Ⅱ

テーマ	掲載頁
探究のなかで「他者」と出会う	79

課題研究Ⅲ 13:00~16:00

テーマ	掲載頁
教育学研究を日本から国際発信するー若手研究者たちからの問題提起ー	80

若手交流会 16:30~18:00

# プログラム 第一日

8月24日(木)

一般研究発表  
テーマ型研究発表  
ラウンドテーブル

社員総会(学会理事会)

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-1-1】 教育理論・思想・哲学①

司会 小淵朝男(二松学舎大学)

下地秀樹(立教大学)

- 9:00~9:30 探究の共同体における教師の位置  
—M.リップマンと A.M.シャープの比較から—  
○後藤美乃理(東京大学大学院・院生)
- 9:30~10:00 アーレント教育論概説  
○飯田峻大(北海道大学大学院・院生)
- 10:00~10:30 イエスの譬え話における教育的役割の検討  
○神門しのぶ(清泉女学院短期大学)
- 10:30~11:00 遠山啓の登校拒否論  
—1970年代の雑誌『ひと』を手がかりに—  
○水谷千景(京都大学大学院)
- 11:00~11:30 戦中戦後の阿部次郎の活動について  
—大正教養主義の残照—  
○松井健人(東洋大学)
- 11:30~12:00 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-1-2】教育理論・思想・哲学②

司会 小野方資(東京家政学院大学)

高橋陽一(武蔵野美術大学)

9:00~10:00 日本の教育学は新カント派をどう読んだのか

—篠原助市文庫の書誌調査から—

○宮本勇一(岡山大学)

○深見奨平(宮崎大学)

○佐藤宗大(日本女子大学)

10:00~10:30 中村鎮の学校給食論

—“学校給食制度の父”が描いた教育に位置づく学校給食とは—

○和井田結佳子(埼玉大学)

10:30~11:00 芸術における技能の修得・習熟・伝承モデルの再構築

—G. バイトソンのコミュニケーション理論と〈優美〉概念を軸に—

○堀 雄紀

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-1-3】教育理論・思想・哲学③

司会 太田 明(玉川大学)

鈴木 剛(北星学園大学)

9:00~10:00 教育における公共性パラダイムの形成と展開

○村松 灯(帝京大学)

○田中智輝(山口大学)

10:00~10:30 明治中後期の教育学における科学と経験

—ヘルバルト派教育学を立脚点として—

○田邊尚樹(目白大学)

10:30~11:00 初期フンボルトの公教育批判再訪

○柳田和哉(京都大学大学院)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-2-1】教育史①

司会 辻 直人(和光大学)

吉川卓司(名古屋大学)

- 9:00~9:30 現代日本における教育史教育の課題  
—歴史教育・高大接続・教員養成を意識した「教育学としての教育史」の教育  
の模索—  
○白石崇人(広島文教大学)
- 9:30~10:00 1940 年代における「特別科学教育」の取り組み  
—東京女子高等師範学校の附属国民学校を事例に—  
○金 智恩(お茶の水女子大学)
- 10:00~10:30 「新しい戦前」と「教育学の戦争責任」  
○前島康男
- 10:30~11:00 幕末期における英語教育の考察  
—長崎・江戸に学ぶ—  
○日置摩耶(千葉大学大学院)
- 11:00~11:30 冷戦期米国広報外交による日本の学生支援の発展史  
—アジア財団の助成活動に注目して—  
○礒山麻衣(京都大学大学院)
- 11:30~12:00 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-2-2】教育史②

司会 小林正泰(共立女子大学)

鳥居和代(金沢大学)

9:00~9:30 広島県師範学校附属小学校における「学校と家庭の連絡」

一児童保護者団の活動を中心に一

○山梨あや(慶應義塾大学)

9:30~10:00 福岡県における予備校と高等学校との関係

一修猷学館の教員配置を通して一

○吉野剛弘(埼玉学園大学)

10:00~10:30 糧友会の食糧展覧會に関する研究

○黄 慶旭(九州大学大学院)

10:30~11:00 戦後日本における主権者教育の実践的展開

○山口一典(学習院大学大学院)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-3】 学校制度・経営

司会 石井拓児(名古屋大学)

柏木智子(立命館大学)

- 9:00~9:30 戦後初期松本市立開智小学校における学校経営実態の特徴  
○鈴木草堂駒(名古屋大学大学院・院生)
- 9:30~10:00 昼間二交代定時制高校の設置状況に関する基礎的研究  
○内田康弘(愛知学院大学)
- 10:00~10:30 教育経営における「分散型リーダーシップ」論の再検討  
○織田泰幸(三重大学)
- 10:30~11:00 学校に対する保護者の「意見・要望」を保護者と教師はどのように認識しているのか？  
—架空の事例を用いた相互比較の試み—  
○山本達人
- 11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-4】 教育行財政・教育法

司会 佐藤修司(秋田大学)

高橋 哲(大阪大学)

9:00~9:30 貸与奨学金が若者の家族形成に及ぼす影響の検証

—JHPS 第2世代調査の社会人データを用いて—

○王傑(杰)(慶応義塾大学)

9:30~10:00 自治体独自少人数学級制の財政的実施方法に関する研究

—教員定数と教員給与費財源に着目して—

○山崎洋介(大阪大学大学院)

10:00~10:30 タイにおける教育改革の構図

—独立委員会報告書を中心に—

○牧 貴愛(広島大学大学院)

10:30~11:00 少子化対応と無償化方策

—2022 年第 209 回~2023 年第 211 回の国会審議にみる「教育無償化」  
論議の経緯と特徴—

○渡部昭男(大阪成蹊大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8月24日(木)

8月24日(木) 9:00~12:00

【一般 A-5-1】 比較・国際教育①

司会 澤野由紀子(聖心女子大学)  
藤井穂高(筑波大学)

9:00~9:30 中国におけるキャリア教育の導入過程研究

—ある高校の事例から—

○黄為軍(日本大学大学院・院生)

9:30~10:00 デンマークの旧植民地・グリーンランドにおける教育の実態と課題

○市川 桂(東京海洋大学)

10:00~10:30 高等学校における国際化対応のカリキュラムを通じた学習経験

—卒業生へのインタビュー調査から—

○菊地かおり(筑波大学)

羽田野真帆(常葉大学)

坂口真康(兵庫教育大学大学院)

鎌田公寿(常葉大学)

藤井大亮(東海大学)

10:30~11:00 デンマークの学校における生徒参加

—生徒会・学校評議会・課外活動の事例から—

○原田亜紀子(立教大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-5-2】 比較・国際教育②

司会 杉本 均(仏教大学)

牧 貴愛(広島大学)

9:00~9:30 日本におけるドラマ教育の現代的展開

○廖 穎彤(日本大学大学院・院生)

9:30~10:00 移民を背景にもつ子どもたちのための教育保障研究

—北イタリア・トレント自治県における行政介入型支援のあり方に関する一考察—

○望月由美子(北海道大学大学院)

10:00~10:30 モンゴルにおける「教育借用」としての日本型授業研究の受容過程

○ノルジンドラムジャブ(名古屋大学)

10:30~11:00 ポストコロナ時代における中国学校経営の変化と苦境

—中小都市と農村地域の現状に焦点を当てて—

○殷 爽(愛媛大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-6-1】教育方法・教育課程①

司会 唐木清志(筑波大学)

金馬国晴(横浜国立大学)

9:00~10:00 ICT教材とハイブリッドになった教師はどのように自らの志向性を問い直したか

—ポスト現象学における「関係的自由」概念に着目した社会科授業づくりのアクション・リサーチを通じて—

○馬場大樹(千葉経済大学)

○呉 文慧(神戸大学大学院)

10:00~10:30 小学校国語科における Thinking at the Edge を活用した文章指導—国際バカロレアの「概念」に着目して—

○海老澤佳輝(学校法人日本女子大学)

10:30~11:00 グローカル人材育成に資する国際協働サービス・ラーニング型プロジェクト学習に関する効果の検証

—中学校における英語科と総合的な学習の時間のクロスカリキュラムによる授業実践を通して—

○中村早希(徳島県立総合教育センター・長期研究員)

11:00~11:30 授業・学級経営のゲーム的構造

—小学校 2 年生担当教員からの聞き取りによる事例研究—

○藤川大祐(千葉大学)

11:30~12:00 討論

一般研究発表【A】 8月24日(木)

8月24日(木) 9:00~12:00

【一般 A-6-2】教育方法・教育課程②

司会 佐藤英二(明治大学)

吉田茂孝(大阪教育大学)

9:00~9:30 高校普通科コース設立過程における「文書」による「教育内容の明確化」と「同僚性構築」の理解

—アクターネットワーク理論によるコース設立過程の分析—

○山手浩輝(金沢大学大学院・院生)

9:30~10:00 「知識の宝庫(funds of knowledge)」アプローチによるカリキュラム開発の意義と課題

○植松千喜(慶應義塾大学)

10:00~10:30 授業の最近接発達領域と探究としての拡張的学習

—学校学習の脱カプセル化へ—

○山住勝広(関西大学)

10:30~11:00 「深い学び」を生み出す表現力の育成

—山梨県巨摩中学校の芸術教育—

○吉村敏之(宮城教育大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-8】教科教育

司会 子安 潤(中部大学)

亘理陽一(中京大学)

- 9:00~9:30 2021 年度高等学校保健体育科実技授業における感染症対策  
—教員からの感染症予防指導と種目指導方法の変化に着目して—  
○橘田 進(帝京平成大学)
- 9:30~10:00 中学校社会科と音楽科における教科横断型授業実践  
○渡邊雄貴(板橋区立西台中学校)  
矢嶋未来(あきる野市立御堂中学校)
- 10:00~10:30 戦前期から戦後期における中野義見の音楽教育論  
○藤井康之(奈良女子大学)
- 10:30~11:00 道徳教育における生き方の追求についての検討1  
—対話的であることを視点に—  
○安部 孝(名古屋芸術大学)
- 11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A- 10】 技術・職業教育

司会 植上一希(福岡大学)

丸山剛史(宇都宮大学)

9:00~9:30 生成 AI と子どもの対話関係についての研究

—ChatGPT による思考のモデル化づくりの事例研究—

○宮島衣瑛(学習院大学大学院・院生)

9:30~10:00 高校生向け情報メディアコンテスト開催の成果と意義

—「Bunri Creative Award 2022 <<高校生対象>> 地域のためのメディア創造コンペティション」をめぐって—

○世良 清(名古屋文理大学)

10:00~10:30 専門学校生の「好き」を動機とした進学動向

—美容・ファッション・製菓系専門学校生へのインタビュー調査結果から—

○小田 茜(久留米大学)

10:30~11:00 討論

一般研究発表【A】8月24日(木) 9:00~12:00

【一般 A-11-1】 幼児教育・保育①

司会 田岡昌大(大阪青山大学)

西脇二葉(こども教育宝仙大学)

9:00~9:30 日本における保育記録としてのドキュメンテーションの対象設定

○安部高太郎(郡山女子大学短期大学部)

吉田直哉(大阪公立大学)

9:30~10:00 1990年保育所保育指針改定前後における平井信義の保育思想

—発達観を中心に—

○吉田直哉(大阪公立大学)

10:00~10:30 発達の気になる外国にルーツをもつ幼児の受入れと支援

—先行研究のレビューと現状分析—

○二井紀美子(愛知教育大学)

名倉一美(佐賀大学)

10:30~11:00 就学前保育施設の行政・学校・その他関連機関との情報共有

—発達の気になる外国にルーツをもつ幼児の就学支援のために—

○名倉一美(佐賀大学)

二井紀美子(愛知教育大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-11-2】 幼児教育・保育②

司会 亀谷和史(日本福祉大学)

塩崎美穂(東洋英和女学院大学)

- 9:00~9:30 日米の保育者は「背中の保育」をどう捉えるのか？  
—乳児に対して保育士が背中を用いるアプローチをめぐる語りから—  
○中坪史典(広島大学大学院)  
肥田 武(一宮研伸大学)  
加藤 望(名古屋学芸大学)  
内田千春(東洋大学)
- 9:30~10:00 保育所・幼稚園における〈セキュリティ〉と地域社会  
—防犯と保育の関係—  
○青木美智子(京都橘大学)
- 10:00~10:30 堀合文子はどのように 5 歳児の保育をしてきたのか  
—SCAT による分析—  
○李 睿苗(広島大学大学院・院生)
- 10:30~11:00 気候変動の時代の幼児教育  
—コモンワールディングの教育学を中心に—  
○浅井幸子(東京大学大学院)
- 11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-12-1】初等・中等教育①

司会 谷口知美(和歌山大学)

山田哲也(一橋大学)

9:00~10:00 中学校での不登校経験と卒業後の進路

—A 自治体による卒業後 5 年間の追跡調査から—

○加藤美帆(東京外国語大学)

○酒井 朗(上智大学)

10:00~10:30 郷土における社会認識の成立過程にみられる諸概念関連構造の差異と変容  
の究明1

—郷土における社会認識の特質—

○飯島敏文(大阪教育大学)

10:30~11:00 愛知県「学校テスト」の実態—戦後の「地方学力テスト」の検証—

○北野秋男(日本大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-12-2】 初等・中等教育②

司会 二宮衆一(和歌山大学)

本田伊克(宮城教育大学)

9:00~9:30 不登校児童・生徒の学校嫌いについての一考察

—親子の語りに着目して—

○新井寛規(佛教大学大学院・院生)

原 清治(佛教大学)

9:30~10:00 学習ストレス評価に対する生理学的アプローチの可能性

—非侵襲推定心拍出量と心拍変動周波数解析を用いて—

○山本 諄(中部大学大学院・院生)

川畑駿太郎(中部大学大学院)

平手裕市(中部大学)

10:00~10:30 高校の内発的學校改革と教師の役割

○高橋亜希子(南山大学)

和井田清司(武蔵大学)

10:30~11:00 現代思想的な研究をもとにした授業研究の予備的考察

○今野雅典(東京大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-13】 高等教育・中等後教育

司会 松下佳代(京都大学)

吉田 文(早稲田大学)

9:00~9:30 早期卒業制度の大学レベルへの導入過程

—地方私立 X 大学を事例として—

○藤井竜哉(東北大学大学院・院生)

9:30~10:00 美術系大学における一般選抜入試の試験科目

○奥原正弘(放送大学(学)・学部生)

10:00~10:30 アメリカにおける大学アクリディテーションの成立に関する考察

—1900 年代の主要大学団体及び連邦教育局の動向に着目して—

○吉田翔太郎(山梨大学)

10:30~11:00 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-14-1】教師教育①

司会 紅林伸幸(常葉大学)  
渡辺貴裕(東京学芸大学)

9:00~10:00 教師教育に携わる大学教員の省察概念の再構築

—大学教員の語りにおける特徴から—

○山内絵美理(東海大学)

○高谷哲也(鹿児島大学)

○田中里佳(三重大学)

10:00~10:30 民間教育研究団体に所属する社会科中堅教師のライフヒストリー

—歴史教育者協議会を事例として—

○小沼聡恵(東京大学大学院)

10:30~11:00 教育実習に向けた学生の実践教育の考察

○油井宏隆(大阪城南女子短期大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-14-2】教師教育②

司会 牛渡 淳(仙台白百合女子大学)

遠藤貴広(福井大学)

9:00~10:00 教師エージェンシーを育むリーダーシップ機能とは？

—教育の変革を目指す校内研究に視点を当てて—

○後藤郁子(お茶の水女子大学基幹研究院)

○玉野麻衣(大田区立調布大塚小学校)

10:00~10:30 教職志望学生の「即興的なことば」への恐れ

—インプロ(即興演劇)を学ぶ大学生へのインタビュー調査から—

○園部友里恵(三重大学大学院)

10:30~11:00 イングランドにおける多様性を志向する教員養成改革への試み

—反人種主義フレームワークを事例として—

○川口広美(広島大学大学院)

菊地かおり(筑波大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-14-3】教師教育③

司会 金子真理子(東京学芸大学)

佐久間亜紀(慶応義塾大学)

9:00~9:30 360 度カメラによる授業記録映像を用いたリフレクションに関する事例研究  
—授業者と参観者の比較から—

○細川和仁(秋田大学)

9:30~10:00 教育困難校の教員が有する教育活動への認識

○村本洋介(東京大学大学院)

10:00~10:30 社会的公正を志向する Lesson Study の可能性と課題

○北田佳子(埼玉大学)

10:30~11:00 イギリスの「大学における教員養成」の歴史的展開とその意義

—マンチェスター大学の事例分析を中心に—

○山崎智子(北海道教育大学)

11:00~11:30 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-15】 社会教育・生涯学習

司会 岡 幸江(九州大学)

田中雅文(日本女子大学(名))

- 9:00~9:30 知的障害児・者の「自立」はいかにして語られてきたか  
—全国手をつなぐ育成会連合会の機関誌分析を手がかりに—  
○鈴木 菫(上智大学大学院・院生)
- 9:30~10:00 ChatGPTと読書感想文・学校図書館  
○前田 稔(東京学芸大学)
- 10:00~10:30 設置講座の分析による生涯学習講座への参加促進要因の検討  
—フィンランド・ヘルシンキ市の市民カレッジを事例として—  
○大谷 杏(福知山公立大学)
- 10:30~11:00 討論

一般研究発表【A】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 9:00~12:00

【一般 A-16】 教育心理学

司会 楠見友輔(信州大学)

藤江康彦(東京大学)

- 9:00~9:30 ポールドウィン『哲学・心理学辞典』にみるエネルギー概念  
○井谷信彦(武庫川女子大学)
- 9:30~10:00 蔵書数は、家庭の SES(社会経済的状況)の代替指標としてどれほど適切か？  
—全国学力・学習状況調査、PISA、TIMSS の独自分析から—  
○田端健人(宮城教育大学)
- 10:00~10:30 小学校教師が情動的に有能だと感じる教師の特徴  
—成人に対する調査との比較検討—  
○芦田祐佳(大阪教育大学)
- 10:30~11:00 不安症・強迫症に対する認知療法に関する一考察  
○日野陽平(大阪大学大学院)
- 11:00~11:30 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-1】 市民性教育の課題

司会 黒田友紀(日本大学)  
虎岩朋加(愛知東邦大学)

- 12:30~13:00 シティズンシップ概念の再検討  
—子ども・若者を取りまく複合的な社会的排除を乗り越える参加へ—  
○岡本愛香(北海道大学大学院・院生)
- 13:00~13:30 草の根の市民はいかにして育成可能か  
—地域学校協働活動と学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)に着目して—  
○早坂淳(長野大学)
- 13:30~14:00 スカースデールオルタナティブスクールのジャスト・コミュニティ研究  
○竹原幸太(東京都立大学)
- 14:00~14:30 高等教育におけるアメリカ市民育成と多文化主義  
—カリフォルニア大学バークレー校のアメリカ文化プログラム—  
○福留東土(東京大学大学院)
- 14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-2-1】 学校のリアリティと教育改革の課題①

司会 森本洋介(弘前大学)

大貫守(愛知県立大学)

12:30~13:00 学生の特質とニーズを基にした教員養成カリキュラム概要  
—「押し付ける教育」から「ニーズに応える教育」への転換—  
○市村広樹(広島市立五日市観音小学校)

13:00~13:30 小学校外国語(英語)教育の AI 化に伴う教育改善への一提言  
○藤居真路(金沢学院大学)

13:30~14:00 授業連携を活用した探究学習のデザイン  
—学校と JAXA とで創造する宇宙教育の成果と課題—  
○香川奈緒美(島根大学)

14:00~14:30 人工知能の教育倫理  
—不適切指導・校則・子ども理解—  
○山本宏樹(大東文化大学)

14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-2-2】 学校のリアリティと教育改革の課題②

司会 徳永俊太(京都教育大学)

鈴木悠太(東京工業大学)

12:30~13:00 中国における中学校学級担任の心理的負担に影響を及ぼす個人・組織環境要因

○王瀬森(東北大学大学院・院生)

13:00~13:30 高等学校「総合的な探究の時間」の運営における教員トレーニングの課題

—「できる人任せ」をいかにして防ぐか—

○地蔵繁範(京都市立西京高等学校)

13:30~14:00 教師の実践を支える「モノ」支援の現状

—自治体調査の結果から—

○澤田俊也(大阪工業大学)

14:00~14:30 コミュニティ・スクール導入に向けた教育委員会・学校の間組

○押田貴久(兵庫教育大学)

14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-5】 ジェンダーと教育

司会 石黒万里子(東京成徳大学)

土田陽子(帝塚山学院大学)

12:30~13:00 若年レズビアン／ゲイ男性は学校や家庭で直面する困難にいかに対処するのか？

—ホモフォビアとアウティングの暴力の只中で—

○島袋海理(名古屋大学大学院・院生)

13:00~13:30 国際協力 NGO の広報におけるジェンダー化された「第三世界」像

○近藤凜太郎(大阪大学大学院・院生)

13:30~14:00 中国におけるゲイ男性のセクシュアル・アイデンティティの構築

—学校経験に着目して—

○徐崢睿(上智大学大学院・院生)

14:00~14:30 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-7】 教員政策

司会 笠沙知章(京都教育大学)

油布佐和子(早稲田大学)

- 12:30~13:30 非正規教員の実態と意識に関する国際比較研究  
—オーストラリア・オランダ・シンガポール・台湾を対象として—  
○和井田節子(共栄大学)  
○山田真紀(椛山女学園大学)  
○菊地原守(名古屋大学大学院)  
藤田英典(都留文科大学)
- 13:30~14:00 教員採用「早期化」政策の形成過程とその帰結  
—1960年代から2020年代にかけての検討—  
○前田麦穂(国学院大学)
- 14:00~14:30 カナダの M.Ed.及び Ed.D.プログラムに関する一考察  
—日本の教職大学院との比較の視点から—  
○平田淳(佐賀大学大学院)
- 14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-8-1】 戦後教育史の諸問題①

司会 宮盛邦友(学習院大学)  
米田俊彦(お茶の水女子大学)

12:30~13:30 戦後教育史における教育基本法の受容(その 1 )

— 学者・知識人に注目して —

○ 桑嶋晋平(日本女子大学)

○ 富山仁貴(明治大学)

○ 太田拓紀(滋賀大学)

広田照幸(日本大学)

布村育子(国立音楽大学)

13:30~14:30 戦後教育史における教育基本法の受容(その 2 )

— 日本教職員組合に注目して —

○ 布村育子(国立音楽大学)

○ 広田照幸(日本大学)

富山仁貴(明治大学)

桑嶋晋平(日本女子大学)

太田拓紀(滋賀大学)

14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-8-2】 戦後教育史の諸問題②

司会 木村 元(青山学院大学)  
松田洋介(大東文化大学)

12:30~13:00 生徒指導と進路指導の関係について

—歴史的経緯の整理—

○石田美清(順天堂大学)

13:00~14:00 国民教育研究所の研究

—1957 年設立から 1960 年代を中心に—

○神代健彦(京都教育大学)

○濱沖敢太郎(鹿児島大学学術研究院)

○渡邊真之(東京大学大学院)

桑嶋晋平(日本女子大学)

14:00~14:30 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-8-3】 戦後教育史の諸問題③

司会 川地亜弥子(神戸大学)

小国喜弘(東京大学)

12:30~13:00 生活綴方教育における実践の省察枠組みの検討

○徳本百合子(東京大学大学院・院生)

13:00~13:30 教育学研究における戦後数学教育史像の屈折

—学力低下説と現代化運動に注目して—

○佐藤英二(明治大学)

13:30~14:00 戦後改革期における教員と青年期教育・社会教育との関係性

—長野県を事例とした戦後新教育(民主教育)の可能性—

○越川求

14:00~14:30 障害当事者運動を通じた戦後学校教育の問い直し

—成人障害者の普通学校就学運動に焦点を当てて—

○末岡尚文(山梨学院短期大学)

14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-9】 教育学の問い直し

司会 金馬国晴(横浜国立大学)

小林大祐(慶應義塾大学)

12:30~13:00 日本における公教育の輪郭の再検討  
—地域社会との協働を起点とした考察—  
○中野綾香(日本学術振興会)

13:00~13:30 堀尾輝久の戦後天皇制(象徴天皇制)と教育  
—社会理論の観点から—  
○齋藤崇徳(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)

13:30~14:00 教育学研究者の自己形成と戦後日本の教育学(その 2)  
—奥平康照氏への聴き取り調査を中心に—  
○櫻井歓(日本大学)

14:00~14:30 日本の教育学者が学び手の認知メカニズムに関心を持つ必要性  
—科学教育を事例に—  
○守屋明佳(仮説実験授業研究会)

14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-10】 子ども問題と教育・福祉

司会 原田琢也(金城学園大学)

知念 渉(神田外語大学)

- 12:30~13:00 不登校生徒の性トラブルに関する研究  
—Twitter を介した事案の多さに注目して—  
○山田智子(佛教大学大学院・院生)  
原 清治(佛教大学)
- 13:00~13:30 日本におけるいじめ予防プログラムの動向  
—KJ 法による内容分析をもとに—  
○古池伶美(千葉大学大学院・院生)
- 13:30~14:00 新型コロナウイルス感染症拡大以降のこども食堂における活動と課題  
—子ども・若者の参加支援を通じた地域福祉の発展にかかわる実践の検討を中心—  
○山本智子(国立音楽大学)
- 14:00~14:30 産後ケア事業と自治体施策(2)  
—滋賀県を事例に—  
○渡部(君和田)容子(名古屋女子大学)
- 14:30~15:00 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-11】 厄災と教育学研究

司会 高橋舞(文京学院大学)

田端健人(宮城教育大学)

12:30~13:00 被災地における教員人事行政に関する研究

○中丸和(大阪大学大学院・院生)

13:00~13:30 平和学習における聞き書きの役割と意味

—北海道・根釧原野の戦後開拓に即して—

○阿知良洋平(室蘭工業大学)

13:30~14:00 公害教育はいかに評価されてきたのか

—公害教育から環境教育を再考する—

○佐野良介(東京大学大学院)

14:00~14:30 討論

テーマ型研究発表【B】 8 月 24 日(木)

8 月 24 日(木) 12:30~15:00

【テーマ B-12】Educational Issues from Global Perspectives (English Session)

司会 Christopher Bondy(国際基督教大学)

恒吉僚子(文京学院大学)

12:30~13:00 A Comparison between Theory and Policy in the Curricular STEM  
Integration at the Japanese Colleges of Technology KOSEN  
:Focusing on Model Core Curriculum (MCC)  
○Nagwa Fekri Rashed(金沢大学大学院・院生)

13:00~13:30 Local government involvement in education for ethnic minority  
children  
○橋本彩花(ロンドン大学大学院・院生)

13:30~14:00 A Comparative Study of Early Childhood Education Policies in  
Tokyo and New York City(東京都とニューヨーク市における幼児教育無償  
化制度の実装アウトカム比較研究)  
○赤羽早苗(東京工業大学)

14:00~14:30 討論

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 1 「多様な教育機会」をとらえる視角 —公教育の再編と子どもの福祉(その3)—

企画者 森 直人(筑波大学)  
報告者 森 直人(筑波大学)  
          澤田 稔(上智大学)  
          金子良事(阪南大学)

### 〈趣旨〉

本企画は、2015年の通称「多様な教育機会確保法案」の報道とその後の事態の推移を契機として2016年4月に誕生した「多様な教育機会を考える会」(rethinking education 研究会、以下RED研)におけるこれまでの議論の成果を総括する企画の一環として設定される。

RED研は、同法案が提起した問題を広く、長期的かつ多角的な視点からとらえなおすことを目的として誕生した。教育学、社会学、社会政策・社会福祉・社会保障論など学際的な研究者のみならず、フリースクールや子どもの貧困対策などの支援の現場に携わってきた当事者・実践者・運動家らもつながり、議論を交わす集まりである。これまでに2023年5月現在で計40回の定例研究会を開催するほか、公開シンポジウム(2021年)や公開ワークショップ(2020年)、日本教育学会ラウンドテーブル(2017年・2018年)などの機会にその成果の一端を発信してきた。今回のラウンドテーブルから数度にわたるシリーズ企画として、RED研の成果を総括することを企図している。

RED研は以下の3つの特徴を軸とするスタンスのもとで議論を蓄積してきた。すなわち、①「多様な教育機会」概念の射程を拡大すること、②単純で粗悪な「市場化」「民営化」への警戒を堅持しつつも、同時に「NPO・株式会社など民間法人・団体の関与=ネオリベ」という等式図式を前提としないこと、さらに、③「唯一最善のシステムとしての学校」を絶対視しないが、同時に「学校をよくなる」こともめざすこと、である。

今回のラウンドテーブルでは、こうしたRED研が選択したスタンスが、どのような教育学的・社会政策論的パースペクティブをもたらすことになるかについて、RED研立ち上げにかかわった3名の報告者がそれぞれの専門(批判的教育研究・教育社会学・社会政策論)と視点から報告し、討論者およびフロアと議論を交わす。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 2 GIGA スクールにおける学校図書館の役割 —タブレットの導入で危がまれる学校図書館の活用—

企画者 木幡洋子(愛知県立大学(名誉教授))  
野口武悟(専修大学)  
泉山靖人(東北学院大学)

### 〈趣旨〉

GIGA スクール構想のもとすべての児童・生徒へのタブレットの配布が行われ、学校図書館に行かないで教室でウェブあるいは多様な電子コンテンツを情報源とするようになったということが聞かれるようになった。こうした現象は、情報の種類やその信頼性についての知識がないまま、子どもたちが無批判に web からの情報を用いることの危険性は無論のこと、学校図書館が教育課程に貢献するための資料の構成や情報リテラシー教育が無用だという考えを学校に定着させ、学校図書館が無用だという風潮を生みだしかねない。そこで、本ラウンドテーブルでは、学校図書館とはそもそもどのような機能を果たすべき施設なのか、また、情報時代という急激な変化を示す時代においてどのような新たな機能が求められているのかを、2015年のIFLA 新学校図書館ガイドラインと2021年のIFLA 新学校図書館宣言を分析する報告を行い、その後、参加者である現場の司書教諭、学校司書、学校図書館担当者の方々から、現場の状況についての情報交換をしていただき、どうすれば学校図書館の役割を現場で理解してもらえるかを考えていく。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

### 3 いまこそ高等教育を無償へ

—海外動向から学ぶ—

企画者 渡部昭男(大阪成蹊大学)

光本 滋(北海道大学大学院)

司会者 渡部昭男(大阪成蹊大学)

光本 滋(北海道大学大学院)

報告者 石井拓児(名古屋大学大学院)

岡山 茂(早稲田大学)

多胡太佑(北海道大学大学院)

横山岳紀(名古屋大学大学院)

#### 〈趣旨〉

2022年は日本が国際人権A規約13条「教育への権利」2項(b)中等教育・(c)高等教育の「無償教育の漸進的導入」条項に係る留保を撤回し、漸進的無償化に進むことを国際公約してから10周年であった。にもかかわらず、この間の日本政府の高等教育無償化の歩みは遅々たるものであり、低所得層に限定した学費減免・給付奨学金セットの修学支援策を2020年度からスタートさせたに過ぎない。その大学等修学支援法は実施後4年経過を待って見直すこととされており、政府サイドでは目下、①理工農学系や3人以上の多子世帯を対象に中間所得層(年収上限600万円目安)に拡大する案、②大学院生を対象に授業料の後払いを可能とする受益後納付制度の創設案などが論議されている。これに対して、日本教育学会として、どのような問題提起・いかなる改善提言が可能なのかが問われている。奇しくも本第82回大会共同開催校の東京都立大学では、年間約52万円、4年間で208万円余りの授業料の減免対象を、現在の世帯収入が478万円未満[全額免除]/674万円未満[半額免除]から、都民子弟を対象に910万円未満[全額免除]に拡大する無償化の2024年度導入を予定しているという。まさに高等教育無償化を論議するに相応しい大会と言えよう。

本ラウンドテーブルでは、アメリカ(石井拓児[名古屋大学])、フランス及びEU(岡山茂[早稲田大学])、ドイツ(横山岳紀[名古屋大学院生])、韓国(多胡[尹]太佑[北海道大学院生])についての話題提供を受けて、海外動向に学びつつ高等教育無償化の論議を深めたい。なお、『雑誌経済』2022年10月号の特集「いまこそ高等教育を無償へ」を参照されたい(漸進的無償化公約の10年:渡部昭男、高等教育における授業料無償化の動向:石井拓児、欧州における高等教育の無償化:岡山茂、コロナ危機が浮き彫りにした高等教育無償化の課題:光本滋、コロナ禍の下での韓国の学費減免運動:多胡太佑)。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

#### 4 ローカルメディアを通して見る 1960年代の教育像

—教育言説の地域性と多様性をとらえ、後の実践・政策等との関連を問う—

企画者 佐藤知条(静岡産業大学)

岩田一正(成城大学)

佐藤英二(明治大学)

司会者 佐藤英二(明治大学)

高井良健一(東京経済大学)

報告者 佐藤知条(静岡産業大学)

岩田一正(成城大学)

高井良健一(東京経済大学)

#### 〈趣旨〉

1960年代は戦後教育の大きな転換期である。たとえば、教育が福祉よりも経済の観点から眼差されるようになったのもこの時期である。本ラウンドテーブルでは1960年代に焦点を当て、新聞やテレビ、雑誌等において教育についての語りがどのように変容し、その語りの変容がその後の教育実践や教育政策をどのように方向づけていったのかを検討する。

日本教育学会第81回大会のラウンドテーブル「マスメディアによる教育言説の展開にみる1960年代の教育像」では、新聞の全国紙や専門雑誌、公共放送などの記事・番組を中心に言説を検討し、現在に至る戦後教育史の語りから零れ落ちた観点や語られなくなった視点の存在を示すとともに教育言説の多様性という視点から戦後教育史をとらえることの可能性と必要性を指摘した。今回のラウンドテーブルでは前回のテーマを継承しつつ、いくつかの地域のローカルメディアの言説に注目し、それらの報告を通して1960年代の教育言説の特徴と地域性、多様性の広がりを中心に検討したい。1960年代以降、日本のマスメディアは東京を中心とする視点からの情報の収集、再構成、伝達のシステムを確立させ、東京から地方へという一方向的な情報の流れを生み出していく。その過程のなかで、ローカルメディアにおいて教育に関する地域の独自性や地域の視点はどのように扱われていったのか、さらには、ローカルメディアは、地域の教育をどのような切り口で描き出し、どのような理念で世論に訴えかけようとしたのか。また、これらのメディアの言説と「46答申」をはじめとした1970年代の教育制度改革・教育政策(の方向性)との関連はいかなるものか。これらの点について参加者とともに議論や問いを深めたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 5 教育の中のデータ／データの中の教育

—データ駆動型教育におけるデータの利活用と教師の専門性—

企画者 國崎大恩(福井県立大学)

司会者 國崎大恩(福井県立大学)

報告者 國崎大恩(福井県立大学)

高松邦彦(東京工業大学)

桐村豪文(弘前大学)

伊藤 響(ヘルシンキ大学)

### 〈趣旨〉

新型コロナウイルス感染症の影響による GIGA スクール構想の前倒しは、受け入れる側の議論が醸成しないまま、学校教育をとりまくデジタル環境に急激な変化をもたらした。その結果、初等・中等教育の学校段階では試行錯誤をくり返しなが、デジタル機器の利活用に関する最適解を今なお手探りで求めている状況にある。とはいえ、GIGA スクール構想により実現した 1 人 1 台のデジタル端末という教育環境は教育方法のみに変化を求めものではない。それぞれの子供が自らのデジタル端末を利用することにより、学習履歴や学習評価等の教育データはこれまで以上に緻密に収集しやすくなる。そこでそれらの教育データを分析・活用することで、より効果的な授業改善や教育政策の立案・実施、さらには学習者1人ひとりに最適な学習環境を提供することができるのではないかと考えられている。すなわち、1 人 1 台のデジタル端末という教育環境は教育方法だけにとどまらず、教育のあり方そのものを変えていくというわけである。「データ駆動型教育」とも呼ばれるこうした教育のあり方と従来の教育のあり方との決定的な違いは、意思決定や行動の仕方にある。これまで教師や政策立案者は、何らかの理念や目標を掲げ、その実現にむけて意思決定や行動をおこなってきた。他方、データ駆動型教育においては必ずしも理念や目標を事前に掲げる必要はなく、膨大な教育データの分析・活用により意思決定や行動をすることが可能になる。そうであるならば、教師や政策立案者にとって「データの利活用」という行為そのものの意味だけでなく、自らの専門性それ自体も変化していくことになるだろう。そこで本ラウンドテーブルでは、データ駆動型教育におけるデータの利活用という問題に焦点をあて、その課題と可能性について実践的・理論的に検討をおこなうことにより、これからの教育のあり方と教師の専門性がいかに変化していくのかを見通してみたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 6 グローバル化時代の子どもの権利保障

—子どもの思い・思考・探求を保障するとはどういうことか—

企画者 太田 明(玉川大学)  
村知稔三(青山学院大学)  
佐藤哲也(宮城教育大学)  
井岡瑞日(大阪総合保育大学)  
司会者 村知稔三(青山学院大学)  
報告者 太田 明(玉川大学)  
佐藤哲也(宮城教育大学)  
井岡瑞日(大阪総合保育大学)

### 〈趣旨〉

このラウンドテーブルでは、科学研究費基盤研究(B)「グローバル化時代の子ども観の質的転換と子どもの権利保障政策に関する比較社会史研究」(研究代表者:佐藤哲也・宮城教育大学教授、2019~2023年度)の共同研究の成果の一部を発表する。

今年度は、子どもの思い・思考・探求に焦点を当てて三つの報告を行い、子どもの思い・思考・探求を大事にすることがどのような子ども観に基づくのか、そしてどのように子どもの権利を保障することになるのかを検討する。

井岡は、子どもの権利論者としても知られる19世紀フランスの作家ジュール・ヴァレスが自伝小説『子ども』(1879)において子どものどのような思いを代弁しようとしたのかを明らかにする。

太田は、公教育で行われる「子どもの哲学」に対する近年の批判的な議論を踏まえたうえで、「大人の哲学」とは異なる「子どもの哲学」の特徴を検討する。

佐藤は、宮城県下で実践されている探求の対話(p4c)に基づく「探求」授業の実践とその狙い・成果・課題について報告する。それを通して、子どものアドボカシーを保障するための学校教育の取り組みを考察する。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 7 チェンジラボラトリーによる教師の拡張的学習の生成と学校改革の活動理論的研究 —成城学園初等学校における協働的な教育実験の試み—

企画者 山住勝広(関西大学)  
報告者 山住勝広(関西大学)  
富澤美千子(横浜美術大学)  
白敷哲久(昭和女子大学)  
伊藤大輔(秋田県立大学)  
石田絵里香(関西大学大学院)  
真砂伽也子(関西大学大学院)

### 〈趣旨〉

本ラウンドテーブルは、2022年度～2026年度 科学研究費・基盤研究(A)「拡張する学校を創る—変革的エージェンシーの形成へ—」(研究代表者:山住勝広、課題番号:22H00084)の研究プロジェクトとして進めている、成城学園初等学校での協働的な教育実験のための「チェンジラボラトリー」の取り組みについて、その中間的な成果を報告しようとするものである。

「チェンジラボラトリー」は、ヘルシンキ大学のユーリア・エンゲストロームの研究グループによって1990年代半ばに生み出された、「文化・歴史的活動理論」にもとづく「形成的介入」の具体的な研究方法である。それは、実践者と研究者が協働し、実践者が自分たちの実践を自分たちで変化・発達させ、新たな実践を実験的に創造していく「拡張的学習」と「変革的エージェンシー」を生成しようとするものである。

2023年3月～12月に全10回の連続した会合(1回あたり2時間)をもつ成城学園初等学校でのチェンジラボラトリーは、エンゲストロームがモデル化している「拡張的学習のサイクル」の七つの「拡張的学習行為」、すなわち「1. 問いかけ → 2. 分析 → 3. 新しい解決策のモデル化 → 4. 新しいモデルの検証とテスト → 5. 新しいモデルの実行 → 6. プロセスのリフレクション → 7. 新しい実践の統合と一般化」を、行ったり来たりしながら実行しようとする試みである。ここでは、具体と抽象の間、そして過去・現在・未来の間の異なるレベルを往還しながら、教師と研究者の交渉・議論を通じた社会認知的プロセスが進行する。チェンジラボラトリーは、そうしたプロセスを促進・支援するものであり、そのためのさまざまなモデルやツール、手立てがそこではもち込まれて利用され、共有されていく。

本ラウンドテーブルでは、「3. 新しい解決策のモデル化」まで進んだ段階でのこのチェンジラボラトリーの成果について報告することにしたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 8 戦後教育史研究の可能性を探る

— 神奈川県高等学校教職員組合の関係史資料を活用して —

企画者 香川七海(日本大学)

司会者 木村 元(青山学院大学)

報告者 香川七海(日本大学)

徳久恭子(立命館大学)

萩原克男(北海学園大学)

### 〈趣旨〉

本ラウンドテーブルは、2010年代以降、研究成果が急速に蓄積しつつある教職員組合研究を相対化しつつ、新たな戦後教育史研究の可能性を探ることを目的としている。また、研究報告にあたって、神奈川県高等学校教職員組合(略称、神高教)に着目し、適宜、同組合に所蔵されている史資料に依拠しながら議論を展開する。

近年、様々な分野・領域の戦後教育史研究の成果が発表されている。ただ、教育学における戦後史研究には、対象や分析手法に偏りがあるように思われる。たとえば、教職員組合に関する研究の場合、新たな資料の発見にもとづく日教組執行部の意思決定過程の研究が重ねられているが、保革対立型の労働政治の枠組みに準拠したものになっている。だが、それがすべてではない。日教組を構成する都道府県組合は組合員の勤務条件の維持管理や教育研究活動の発展を図るために独自の試みをなすことで、中央の意向から外れることも少なくなかった。都道府県組合の決定を多様化させた要因は何か。この解明も重要な課題として残されている。具体的には、地方の教育政治における主要なアクターである首長、議員、教育委員会、校長会、PTA、教育会等と単組との関係を丁寧に描くことで、妥結や協調型の意思決定の有無やその意味を知ることが務めとなる。あわせて、教職員組合の正負の遺産を相対化させることも欠かせない。

各メンバーは、上の関心から戦後教育史の研究を続けているが、そこにはいくつかの研究空白があることもわかってきた。本報告では、先行研究の成果を頼りにしながらも、その課題を整理し、戦後教育史研究の可能性を探るという試みを行いたい。なお、このさいに、神高教に所蔵されている史資料の新たな読み方についても議論をしたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 9 ジェンダー平等に向けての教育データサイエンス

—国際学力調査 PISA と TIMSS および国際教員調査 TALIS の独自分析から—

企画者 田端健人(宮城教育大学)

司会者 本図愛実(宮城教育大学)

報告者 田端健人(宮城教育大学)

本図愛実(宮城教育大学)

山田美都雄(宮城教育大学)

平 真木夫(宮城教育大学)

### 〈趣旨〉

世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2022」によれば、ジェンダー・ギャップ指数の総合スコアで、日本は 146 か国中 116 位、先進国中で最低レベル、アジア諸国でも韓国や中国、ASEAN 諸国より男女格差が大きい。この指数では「政治」と「経済」の分野で日本の男女格差が顕著に大きく、「健康」と「教育」の分野では日本は完全対等と評価されているが、識字率の男女比や初等中等高等教育就学率の男女比だけでは、教育分野のジェンダー・ギャップを高い精度で把握・比較することはできない。国際的に見て、日本の教育分野では、ジェンダー平等はどれほど達成されているだろうか。また、どの点にジェンダー格差が残存しているだろうか。

児童生徒、保護者、教師のジェンダー・ギャップの現状を国際比較するために、本ラウンドテーブルでは、国際学力調査 PISA と TIMSS、ならびに国際教員指導環境調査 TALIS の公開データを独自分析し紹介する。分析の観点としては、児童生徒に関しては、①各教科の学力の性差、②いじめを受ける体験や反いじめ意識の性差、③ウェルビーイングの性差、保護者に関しては、④母親と父親の最終学歴のギャップ、教員に関しては、⑤校長職の男女比、⑥初等中等教育教員の男女比、⑦理数教科教員の男女比、⑧教職満足度の性差などの基礎データを分析・国際比較し紹介する。ジェンダー平等に関する今後の国内外調査のさらなる分析と、教育分野での行動に向けて、活発に意見交換したい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 10 戦後日本における民間教育研究運動史の試み

—個別の民間教育団体の布置関係を描く—

企画者 前田晶子(東海大学)

大西公恵(和光大学)

神代健彦(京都教育大学)

### 〈趣旨〉

戦後日本の民間教育研究運動においては、生活教育、科学と教育、地域と教育、学力と人格、集団づくり、綴方・作文教育、発達保障などの主題が追求され、公式の教育課程にインパクトを与えてきた。また、時に政治との対立を鮮明にしながらも、教師世界の裾野では、研究会を通して「優れた実践」に学びあう場として存在してきたものである。これらの民間教育研究運動の蓄積は、現代の教員文化、とりわけ世代交代問題にとって一つの重要な脈であると同時に、教育の戦後史において個別の民間教育団体の布置関係をどのように描くかという研究課題が存在している。今回の企画は、民間教育研究運動史の枠組みを検討することを目的としたものである。

民間教育研究運動史を描く上で、個別の民間教育団体の担い手らの語りに即して団体史をまとめると同時に、各団体の思想的な系譜を辿るだけでなく、運動を通してどのように同時代の教育制度や就学動態の変動に答えようとしたのかという社会との応答関係に注目する必要があると考えられる。このような教育社会史の視点をもって本研究課題にアプローチしたいと考える。また、全国組織をもつ代表的な団体だけでなく、地域に固有の展開や、公教育の枠組みの境界にある非一条校の動向にも注目する。今回は、報告者の各民間教育団体史を相互に交流することで、戦後から1990年代までの民間教育研究運動の全体像を大きく掴みたいと考える。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 11 アメリカにおける教師の専門性の史的変遷

企画者 原 圭寛(昭和音楽大学)

古田雄一(筑波大学)

間篠剛留(日本大学)

司会者 古田雄一(筑波大学)

間篠剛留(日本大学)

報告者 原 圭寛(昭和音楽大学)

高野貴大(茨城大学)

岸本智典(鶴見大学)

指定討論者 小野瀬 善行(宇都宮大学)

### 〈趣旨〉

本研究グループは、アメリカにおいてコロナ禍およびそれ以前のトランプ政権時代から散見されるようになった、「市民」による教育内容に関する政治的干渉という問題に端を発し、昨年(2020年)の第81回大会で「社会の分断と対立の時代におけるデモクラシーと教育」と題してラウンドテーブルを行った。そこでの論点の1つとなったのが、今回のテーマとなった「アメリカにおける教師の専門性の史的変遷」という問題である。

アメリカでは1990年代以降、新自由主義的な教育改革のもとで教職の脱専門職化と呼ばれる状況が進行している。これまで教師は、教室において自律的な判断を行う者と考えられてきた。しかし、スタンダードとアカウンタビリティによる監査社会の形成によって教育政策は大きく変容し、カリキュラム要件や指導形態、様々な基準の押し付けが、学校における教師の自律性を制限している(Boser & Hanna, *In the quest to improve schools*, 2014)。このような状況に対して新たな教師の専門性を構想しようとする動きがあるが、そこに「科学」というキーワードが登場することは稀である。対して19世紀から20世紀にかけてのアメリカにおいて教師の専門職化が初めて議論された際、その焦点は「科学」であった。そこで本ラウンドテーブルでは、現代と世紀転換期における教師の専門性の議論を比較し、上述のような変化が生じた要因について、議論を行いながら検討をしていきたい。

本ラウンドテーブルは、科研費23H00935の助成を受けている。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 12 高等教育が育む批判的思考力と創造性

企画者 杉村美紀(上智大学)  
司会者 杉村美紀(上智大学)  
報告者 鎌田武仁(上智大学)  
西村幹子(国際基督教大学)  
布柴達男(国際基督教大学)  
藤沼良典(国際基督教大学)

### 〈趣旨〉

本ラウンドテーブルは、高等教育の学修成果の可視化を視野にいれ、学生主体の学びと批判的思考力及び創造性の育成について、以下の4つの発表を基に考察する。

鎌田武仁「Research Integrity: 大学での学習過程とそれらに影響を与える外的要因について」では、大学生の学習過程とそれらに影響を与える内的要因と外的要因に関する文献研究(Research IntegrityとCollege Student Development Theory)に基づいて、批判的思考や創造性を学ぶ過程に影響を与える外的要因を考察する。

西村幹子「サービス・ラーニングが育む批判的思考力と創造性」では、国際基督教大学における一般教育科目「サービス・ラーニング」の受講生の批判的思考力および創造性の変化を学生へのサーベイによる自己分析結果およびフォーカス・グループ・インタビューによって明らかにした暫定的な結果を報告する。

布柴達男「一般教育科目『環境研究』と正課外活動を通じた批判的思考を育む教育実践」では、知識の習得に加え、多角的な視点と批判的思考による問題の本質の理解、解決に向けたアクションの創造と実践を目指した対面またはオンラインで実施したアクティブラーニング型授業での学びの効果を、履修前後、さらに履修後に履修前を振り返る3時点での自己評価をもとに、特に批判的思考に焦点を絞って紹介する。

藤沼良典「授業言語の違いが批判的思考力の学修に与える影響」では、専門分野の基礎科目において、授業言語(英語、日本語)の違いが基礎概念と批判的思考の習得に及ぼす影響を日本語を第一言語とする学生に焦点を絞り、複数年の履修前後の自己分析及び定期試験の成果を基にして明らかになった暫定的な結果を報告する。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

### 13 徳の教育と哲学

企画者 三澤紘一郎(群馬大学)  
立花幸司(千葉大学)  
報告者 三澤紘一郎(群馬大学)  
立花幸司(千葉大学)  
中西亮太(東京大学大学院)  
川村雄真(筑波大学)

#### 〈趣旨〉

本ラウンドテーブルの目的は、現代哲学において多様な展開を見せる徳理論を概観したうえで、それらと教育との理論的な結びつき、実践における応用と発展、政策への提言等を探求する道筋を提示し議論することである。

徳(areté)と教育のつながりは古くて深い。「徳とは何か」の探求にソクラテスを向かわせたのは、二十歳前後の若者メノンからぶつけられた「徳は教えられるのか」という問いであったし、徳を思考に関わる「知的な徳」と人柄や性格に関わる「人柄の徳」に大別したアリストテレスは、前者を教示に後者を習慣に主として結びつけた。「生まれついで的人格者」や「徳を十全に備えた有徳な新生児」といった存在は実質的に想像し難いことを考えれば、アリストテレスの徳に関する議論を最大の知的水源として 20 世紀後半に再興した徳理論の展開の中で、徳と教育の結びつきが一つの焦点となっていることは半ば当然の動静であると言えるだろう。

ただし、「徳」という日本語のもつ独特の硬さや暗さは、日本における徳理論の受容にも影響を及ぼしている面があると思われる。例えば現在、英米圏において徳倫理学は「ケアの倫理」と並んで道徳教育に欠かせない視点を提供しているが、日本はまったくそのような状況にない(後者のみが広く議論されている)。

このような状況を打開するために、本ラウンドテーブルでは、『徳の教育と哲学:理論から実践、そして応用まで』(2023 年刊行予定)を編まれた立花幸司氏、同書の執筆者で特に徳倫理学および関連領域で精力的に研究されている気鋭の若手研究者である中西亮太氏と川村雄真氏とともに、徳の哲学と教育の共振の可能性と展望を検討したい。以上の趣旨のもと、本ラウンドテーブルは次のような構成をとる。(1)司会による趣旨説明と三氏の紹介、(2)三氏の発表、(3)それぞれの発表内容に関する司会を含めた 4 人による討論、(4)参加者との対話・討議。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 14 ロシア型 STEAM/STREAM 教育の構造と周辺諸国への波及 —ロシアのウクライナ侵攻による人材と資源の移動に着目して—

企画者 澤野由紀子(聖心女子大学)  
司会者 木之下 健一(目白学園大学)  
報告者 澤野由紀子(聖心女子大学)  
タスタンベコワ クアニシ(筑波大学)  
MISOCHKO GRIGORY(京都外国語大学)  
黒木貴人(福山平成大学)  
白村直也(岐阜大学)  
指定討論者 大谷 実(金沢大学)

### 〈趣旨〉

20 世紀末からの情報革新とグローバル化の進展に伴い、国の経済・産業発展のために国際的競争力の高い人材養成の必要性が増すなか、児童生徒一人ひとりの才能と創造性を引き出す教育を推進するための教育政策・制度の構造はどうあるべきか、教育機会の公正性の観点から探求することが求められている。本ラウンドテーブルを企画したメンバーが所属するロシア・ソビエト教育研究会では、2020 年度より、第4次産業革命への対応と社会・経済の急激な変化により生じる諸問題を解決するための創造性やデザイン的思考力を育む上で効果が期待される科学・ロボティクス・工学・芸術・数学を融合させた STREAM 領域の才能教育に独自の手法で取り組むロシアをはじめとする旧ソ連諸国に注目し、その制度設計の構造と教育実践の実態の解明を目指すとともに、教育ネットワークを通じた国際的な影響関係についても明らかにすることを目的とする研究に取り組んでいる(JSPS20H01646)。しかしながら、COVID-19 パンデミックおよび2023 年 2 月 24 日から始まったロシア連邦によるウクライナへの軍事侵攻により、当初研究計画の中心に据えていたロシアにおける現地調査ならびにロシアの研究協力者との共同研究の実施が難しくなったことから、昨年度より周辺諸国の現地調査を開始した。本ラウンドテーブルでは、フィンランド、ハンガリー、ウズベキスタン、カザフスタン、モンゴル等における現地調査にもとづく報告を行う。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 15 服装・所持品規定を問いなおす

企画者 内田 良(名古屋大学大学院)

山本宏樹(大東文化大学)

報告者 山本宏樹(大東文化大学)

大津尚志(武庫川女子大学)

福嶋尚子(千葉工業大学)

鈴木雅博(明治大学)

### 〈趣旨〉

全国的な進展が見られる校則改革のなかで、特に注目を集めるテーマの一つとして「服装・所持品規定」が挙げられる。近年では、文部科学省が2015年に性同一性障害に関する児童生徒支援策として「自認する性別の制服・衣服や、体操着の着用を認める」等を挙げており、2021年以降に各地で策定が進められている自治体「校則見直しガイドライン」においても、「文化や性の多様性の尊重」や「健康上の配慮」の観点から服装・所持品規定の見直しの必要性について言及される場合が少なくない。

そうした流れを受け、ここ数年、各地の学校で服装や所持品に関する規定の見直しが相次いでいる。例えば、学生衣料大手のトンボによると、同社の制服を採用している中学・高校のうち、女子制服へのスラックス導入校は2018年時点で370校であったのに対し、2022年度には1500校を超えたという(AERA 2023年4月10日号)。スマートフォンについても、文部科学省が主導する形で、2020年に中学校の「スマホ持ち込み」について原則禁止から条件付き容認への移行が行われた。

その一方で、服装や所持品に関する規定を大幅に緩和・撤廃する学校は多くない。その背景には、現行規定を支持する生徒・保護者が一定数存在していることや、各学校において規定を緩和した場合のドレスコードや指導基準を策定することに困難があるなどの理由が考えられる。

本ラウンドテーブルでは、こうした現状を踏まえ、前半で趣旨説明と現状解説、論点整理を行い、『だれが校則を決めるのか』(岩波書店、2022年12月刊)著者による情報提供を行う。ラウンドテーブル後半では、出席者とともに自由に意見交換を行うことで、服装・所持品規定の教育的意義を改めて検証し、今後の校則改革の在り方について議論を深めたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 16 「共生」の場はいかにしてつくられるのか？

—学校内外の実践に着目して—

企画者 金丸彰寿(神戸松蔭女子学院大学)

司会者 金丸彰寿(神戸松蔭女子学院大学)

報告者 大山正博(武庫川女子大学)

呉 文慧(神戸大学大学院)

村田観弥(立命館大学)

### 〈趣旨〉

本ラウンドテーブル(RT)の関心は、「共生」を実現する実践のあり方である。「共生」は、社会的排除から包摂(インクルージョン)に向かう社会を見据え、創造していく上での基本概念に位置づくが、それを実践として具体化し問い直すことによって磨き深まっていく、永続的なプロセスと見做せる(例えば岡田敬司(2014)『共生社会への教育学—自律・異文化葛藤・共生』世織書房)。

こうした意識を共有しつつ、本 RT メンバーは、これまで複数回の企画を実施した。直近の第 81 回大会では、『『共生』の教育創造に向けた複数領域からの対話及び検討:〈関係形成〉〈理解・認識〉の枠組みをめぐって』が企画された。そこでは、〈関係形成〉〈理解・認識〉の概念の可能性や課題を探りつつ、「共生」の教育創造に向けて、教科教育、カリキュラム研究、特別支援教育、インクルーシブ教育といった複数領域から議論を行った。

このアプローチを継承しつつ、本 RT では学校内外の実践に着目して、「共生」の「場」はいかにしてつくられるのかについて対話を試みたい。具体的には、「共生」の「場」がつけられるプロセスに着目し、下記の実践を対話の導きの糸とする。第 1 に、視覚障害者のインストラクションのもと研究者自身がアイマスクを着用して街歩きを実施した、参加者間の関係を通して「障害」を考える実践である(村田)。第 2 に、特別支援学校における、教師と自閉症のある子どもとの関係が、人間のみならずモノをも媒介とした相互作用によって変容するプロセスである(呉)。第 3 に、高校社会科の授業において、教師と生徒たちが学問で遊び楽しもうとする教室の全体的雰囲気、個々の多様な学びを醸成するプロセスである(大山)。さらに、戸野塚によるスウェーデンの「共生」のカリキュラム／日常生活の諸実践の立場からの指定討論を踏まえて、フロアの方々との対話に臨みたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 17 「授業研究」は教職の高度化に貢献しているか(2)

—授業研究の国際的展開と授業の国際比較研究の焦点と課題—

企画者 吉田成章(広島大学)

司会者 川口広美(広島大学大学院)

報告者 吉田成章(広島大学)

川口広美(広島大学大学院)

指定討論者 木下江美(ライプツィヒ大学)

サルカール アラニ モハメッド レザ(名古屋大学)

### 〈趣旨〉

日本の授業研究が Lesson Study として世界的に認知され、その研究と実践が広がりと普及をみせるなかで、世界的な教育学研究・教育実践において日本の「授業研究」をどのように位置づけるのかが絶えず重要な論点となってきたことはすでに周知のとおりである。本ラウンドテーブルは、科学研究費補助金「授業研究を軸とした教職の高度化に関する国際共同研究プラットフォームの構築」(課題番号:22H00080)の支援のもと、本学会第81回大会ラウンドテーブル4「『授業研究』は教職の高度化に貢献しているか—日本の授業研究と Lesson Study との接点と課題—」の延長線上の企画として、「授業」の国際比較研究と「授業研究」の国際比較研究の焦点と課題を浮き彫りにすることを目的として設定した。

本ラウンドテーブルでは、授業および授業研究の国際比較の研究実践の報告(木下)と国際的に展開される授業研究の動向からみた授業の国際比較研究の焦点と課題に関する報告(アラニ)を踏まえて、二人(秋田・田上)の指定討論を交えて、授業研究を国際的な視点から捉えることが授業研究による教職の高度化へいかに貢献することができるのかという問いに迫りたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 18 学びの場のグローバル化を問う

—ホームスクールを通して—

企画者 中島千恵(京都文教大学)

杉本 均(佛教大学)

服部美奈(名古屋大学)

石川裕之(京都ノートルダム女子大学)

松本麻美(名古屋大学大学院)

報告者 中島千恵(京都文教大学)

杉本 均(佛教大学)

服部美奈(名古屋大学)

石川裕之(京都ノートルダム女子大学)

松本麻美(名古屋大学大学院)

### 〈趣旨〉

グローバル化と ICT ツールの普及そして 2020 年頃から世界を不安に陥れてきたコロナ禍によって、あらゆる世代の学びの場のグローバル化、ネットワーク化が衝撃的なスピードで進展した。また、ウクライナ人児童の国外避難は、世界のどこに居ようとインターネットにログインさえできれば自国の言語で教育が受けられることの重要性も我々に考えさせた。

学びの場のグローバル化が著しい領域は、生涯学習、高等教育、初・中等段階のホームスクールである。生涯学習では、多種多様な学びがオンラインを通して可能になり、ビジネスや公的主体による講座だけでなく、学習者が主体的に形成するネットワークによって学びの幅と質が飛躍的に拡大した。高等教育では、高等教育機関によるグローバル戦略や非伝統的学びを認証する国際的動向によって、海外からの留学生拡大と、国境を越えない留学機会の提供が進展している。静かに、しかし大海のような規模でグローバル化やネットワーク化が進んでいるのが、初等・中等教育段階のホームスクールである。多様な児童のニーズを受け、公認・非公認のホームスクールが高等教育のグローバル戦略や保護者の生涯学習とも結びつきながら増加している。

これら3領域の学びの場のグローバル化とネットワーク化は、トランスナショナルな側面と複雑な課題を伴いながら進行し、公教育にもじわりと影響を及ぼしつつある。これらをどう受け止め、向き合うか、これからの公教育の在り方、学びの在り方、社会の在り方、そして私たちの生き方とも関わって重要な意味を持つてくると思われる。本発表では、ホームスクールを通して、生涯学習や高等教育も視野に入れながら、学びの場のグローバル化の現実と課題を報告し、参加者とともに議論したい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 19 インクルーシブ教育に社会的文脈を導入する —サリー・トムリンソンの観点から—

企画者 伊藤 駿(広島文化学園大学)

司会者 濱元伸彦(関西学院大学)

報告者 伊藤 駿(広島文化学園大学)

濱元伸彦(関西学院大学)

原田琢也(金城学院大学)

指定討論者 本間桃里(京都大学大学院)

### 〈趣旨〉

2022年9月9日、国際連合の障害者権利委員会より、日本の障害者権利条約に関する取り組みについて勧告が発表された。日本は障害者権利条約を2014年に批准しており、その実行状況についての審査を受けたわけだが、その結果は特別支援教育の推進によりインクルーシブ教育システムを実現しようという日本の方針に対して厳しいものとなったと言わざるを得ない。このことを踏まえれば、特別支援教育の推進を前提としたインクルーシブ教育のあり方を改めて捉え直すことが必要であるといえよう。

今回の企画者らは2022年にSally Tomlinson, 2017, *A Sociology of Special and Inclusive Education*”を邦訳し、『特殊教育・インクルーシブ教育の社会学』として明石書店より上梓した。トムリンソンはかねてより、英国や米国の特別教育やインクルーシブ教育を社会学の観点から批判してきた。本ラウンドテーブルでは、このトムリンソンによる議論をもとに日本のインクルーシブ教育に対して社会的文脈を導入し再検討することをめざす。

まず企画者・話題提供者の伊藤より企画趣旨と書籍の全体的な概要を述べる。その後話題提供者の原田氏と濱元氏よりトムリンソンの指摘する内容を参照しながら日本のインクルーシブ教育の現状を報告いただく。そして指定討論者の本間氏からこれらの指摘をもとにどのような実践や研究が求められているのかという論点を提案いただく。この論点を切り口にフロアの皆様とトムリンソンによる示唆や今後のインクルーシブ教育研究の論点について議論を深めたい。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 20 コロナ禍と子どもの発達困難・リスクの教育的検討

企画者 高橋 智(日本大学)  
司会者 高橋 智(日本大学)  
報告者 田部絢子(金沢大学)  
内藤千尋(山梨大学)  
能田 昂(尚絅学院大学)  
石井智也(兵庫教育大学)  
石川衣紀(長崎大学)  
池田敦子(東海学院大学)

### 〈趣旨〉

WHO は 2020 年 1 月に発出した「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言を終了すると 2023 年 5 月に発表した。日本でも感染症法上の位置付けが 5 類感染症になるなど、規制緩和の動きが世界各国で加速している。

それに対して、子どもの場合には今まさに「COVID-19 パンデミックの最前線にいる」実態が国内外で報告され始めている。例えば、コロナ禍において子どもの不登校、うつ、心身症、自傷・摂食障害、自殺等が急増し、また子どもの罹患後症状「Long COVID」やパンデミックの環境的激変に伴う子どもの発達の影響を意味する「パンデミック後遺症」の実態についてはほとんど未着手・未解明である。数年の時間差で出現するとされる COVID-19 パンデミックに伴う子どもの発達困難・リスクは、今後さらに拡大することが懸念されている。

子どもが今まさに「COVID-19 パンデミックの最前線にいる」実態解明の手掛かりとして本ラウンドテーブルでは以下の作業に取り組む。①「コロナ禍と子どもの発達困難・リスクのシステムティックレビュー」と②「子どもの罹患後症状(Long COVID)とパンデミック後遺症の動向」では、コロナ禍の子どもの発達困難・リスクを把握する。③「コロナ禍における子どもの発達困難・リスクと支援ニーズ:全国の小中高校生調査から」では子ども当事者が捉える困難・リスクと支援ニーズを理解し、④「コロナ禍の北欧諸国における子どものメンタルヘルス問題の動向」では、スウェーデンの訪問調査をふまえて日本と北欧諸国の子どものメンタルヘルスの共通問題について検討する。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 21 ChatGPT時代の学校教育のあり方

—デジタル・シティズンシップ教育・学校図書館の視点から—

企画者 前田 稔(東京学芸大学)

坂本 旬(法政大学)

報告者 前田 稔(東京学芸大学)

坂本 旬(法政大学)

### 〈趣旨〉

2023年に入り、情報処理業界のみならず世界にインパクトを与えた ChatGPT サービスについて、デジタル・シティズンシップ教育・学校図書館の視点から参加者とともに議論を行っていく。

ChatGPT サービスとは、アメリカの OpenAI 社が開発した対話型の情報提供システムである。大規模言語モデル(LLM: Large Language Model)を基礎とした自然言語による入力と対話を通じた高度なテキスト処理を特徴とする。このため、学校教育において、使用を否定すべきか、肯定すべきかについて、社会的な議論が進んでいる。たとえば、日本では読書感想文の ChatGPT による出力が各種の報道で学校教育における典型的な事例として示された。

一方、デジタル・シティズンシップ教育とは、欧州評議会の定義によると「効果的なコミュニケーションと創造のスキルを用いて、デジタル環境に積極的、批判的、能力を持って関わり、テクノロジーの責任ある使用によって、人間の権利と尊厳を尊重した社会参加を実践する能力」であるとされている。ネット社会をモラル教育抜きでは怖い場所であると位置づけているだけでは、子供たちが積極的に社会参画していくことが不十分であるといえよう。デジタル・シティズンシップ教育について、この1年間で世界的にどのような展開があったのかという点について触れつつ、ChatGPT に学校教育がどのように接していくべきかについて当ラウンドテーブルでは議論を進めていきたい。

第68回大会において学校図書館をテーマに始まった当ラウンドテーブルは、第72回大会よりメディア情報リテラシーへ関心を広げ、今年で15年目を迎える。昨年は、学校と家庭の連携のあり方について話を進めた。これまで問題提起を行ったデジタル・シティズンシップ教育とメディア情報リテラシーに関する議論をさらに発展させていく。

ラウンドテーブル 8月24日(木) 15:30~17:30

## 22 日本の知財教育学構築の経過と展望

—内閣府による知的財産推進計画をめぐって—

企画者 世良 清(名古屋文理大学)

司会者 世良 清(名古屋文理大学)

### 〈趣旨〉

日本において、学校教育の場で真正面に知的財産(知財)を据えた教育研究は世界的に見ても画期的である。知財教育研究者や教育実践者らによる教育研究が進みつつあり、「知財教育学」が構築される趨勢にある。

報告者らは「2007年に知財教育政策によって知財教育研究の学術的な研究体制が整備された記念すべき年である」として、「知財教育学」としての学術的研究の萌芽期と位置づけた。以降、進展期や低迷期の複数の波を経て、現下においては「知財創造教育」の概念が発生し新展開期を迎えている。2017年には内閣府が中心になって知財創造教育推進コンソーシアムが創設されるに至り、全国で普及推進に動き始めた。2021年からは、「知財創造教育連絡協議会」をはじめとする自立組織が立ち上がっている。しかし、「知財教育」と「知財創造教育」の共通点や相違点についても、厳然とした区別がなされているとも言えない。これら状況を背景に、本ラウンドテーブルでは、その経過と課題の顕在化、今後の方向性や発展に向けて検討することとしたい。

さらには、学校教育の場で知財教育・知財創造教育の実践は、近隣国の中国や韓国でもみられるが、学術研究の体制が構築されているのは日本だけであり、画期的であることは間違いない。今後、コロナ後は、世界知的所有権機関(WIPO)など連携し、世界各国との国際的な知財教育研究の交流が広がることを期待したい。

# プログラム 第二日

8月26日(土)

課題研究 I

総会

公開シンポジウム I

[課題研究 I 8月26日(土) 9:30~12:30]

### 課題研究 I 義務教育とは何か

近年、日本の義務教育は、一方では大きく揺らぎつつあるといえる。本学会では第 77 回大会の課題研究 I「義務教育を問い直す——『教育機会確保法』の成立をふまえて」(2018 年)においても義務教育についての議論を深めてきたが、5年が経過しコロナ禍も経験した現在、義務教育のあり方にかかわる問題はさらに深刻化し、今やその根本から見つめなおさなければならなくなっているのではないだろうか。文部科学省の調査によれば、2021 年度における小・中学校の不登校児童生徒の数は 24 万人を超えている。また、民間団体等によるフリースクールやオルタナティブスクールへの期待や、不登校児童生徒に限らず義務教育から(包摂されつつ)排除されてきた人々が通う夜間中学校への期待も高まってきている。これらの動向からは、今日、義務教育の名で行われている教育には、一定の割合の子どもの成長発達への支援に結びつくものにはなっていないという側面があるといえるだろう。

しかしながら、他方で義務教育への期待が高まっている側面もあり、諸外国の動向に倣って、幼児教育の義務化や義務教育の年限の延長を提唱する議論も少なくない。ただし、そこで考えられている義務教育には、格差縮小を目指す政策であれ、時代に合わせた労働力の確保のためのものであろうとも、市場的価値に適合的な側面が強調されやすい。

どちらの側面からみていくにせよ、戦後長らく、その根本を変えることがなかった義務教育がこれまで以上に大きな再編を迫られているといえるし、今後のあり方を考える際には、社会経済のグローバル化と福祉国家の変貌をはじめ教育政策をとりまく広い背景を視野に入れながら議論していく必要がある。

この課題研究では以上のような問題関心から、はじめに、門田理世氏からは、世界的な義務教育の開始時期と就学時期の変更及び子どものこれらの時期にかかわる教育・福祉政策の動向のほか、具体的な事例とのかかわりで、日本における幼小接続期の課題等を報告頂く。続いて、藤田美保氏には、従来の義務教育とは異なる形での、オルタナティブスクールの実践報告をお願いした。また、橋本浩一氏には、高齢者や外国人等、様々な事情のもとで義務教育からいわば排除されてきた人たちが学ぶ夜間中学のあり様についての報告をお願いした。この2つの報告は今日の義務教育の問題を写す鏡であると同時に、未来の義務教育のあり方に示唆を与えてくれる役割も果たすと思われる。その上で、森直人氏には、以上3つの報告を先に述べた教育政策をとりまく広い背景とのかかわりで、今日、義務教育に生じている変化を読み解き、日本における再編を考えていくための報告をお願いしたい。これら4つの報告を踏まえた上で、参加者の皆様と、今後可能な義務教育とは何かということについて議論してゆきたい。

【登壇者】 門田 理世(西南学院大学)、藤田 美保(認定 NPO 法人コクレオの森 箕面こどもの森学園)、橋本 浩一(大阪府守口市立きつき学園夜間学級)、森 直人(筑波大学)

【司会】 知念 渉(神田外語大学、日本教育学会研究推進委員会委員)、林 美輝(龍谷大学、日本教育学会研究推進委員会委員)

総会 8月26日(土) 13:30-14:45

## 総会

総会は、東京都立大学1号館120講義室およびオンライン会議システムZoomによるハイフレックス形式で開催します。総会議事次第と資料は、8月中旬ごろに、会員マイページ(<https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JERA>)でお知らせします。ご確認ください。

公開シンポジウム I 8月26日(土) 15:00-18:00

## 公開シンポジウム I 変容する公教育と学習・発達保障のゆくえ

「第4次産業改革」の進行とともに、世界的にも教育の ICT 化が加速し、関連する市場は、民間教育産業による公教育への参入を伴いつつ、急膨張を遂げている。日本では、「Society5.0」という特異な将来社会像を掲げる政府が、経済界とともにこうした動きを牽引し、コロナ渦にも便乗しつつ、「GIGA スクール構想」や教育 DX を進めてきた。

こうした Society5.0 以降の教育改革・政策は、「令和の日本型学校教育」で抵抗を試みようとする文科省を頭越しに、経産省の「未来の教室」事業や内閣府の総合科学技術・イノベーション会議等が主導権を發揮していることからわかるように、これまでの教育政治・統治のあり方を変容させている。

また、AI ドリルや STEAM 教材をはじめ、民間企業が提供する学習・教育アプリケーションの公教育の学校での活用、高校等でのオンラインによる遠隔授業の実施、「個別最適」を一つの焦点とする学習指導の転換など、これまでの学校のかたちが根本から変容しつつある。この流れは、学年や学級という制度、教育課程の枠組み、学校外の場での授業実施、教員組織のあり方等の転換にも行き着きそうな勢いである。

さらに、市中における個別指導塾の隆盛、ここ数年の広域通信制高校への入学者増等が象徴するように、現下の教育改革の方向性は、市民社会レベルでは一定の支持基盤を形成していることにも注意が必要である。

明らかに、公教育のかたちが変容しつつある。この状況をどう把握すればよいのか、子どもたちに対する学習・発達保障には問題はないのか。シンポジウムではこうした論点をめぐって、マクロな視点で、政治・経済・社会の状況や政策動向に目配りをしつつ、ミクロな視点で、公教育制度の現場に何が起きているのかをていねいに掘り下げながら、包括的に迫ってみたい。

### 【シンポジスト】

横井 敏郎(北海道大学)

土岐 玲奈(星槎大学)

南出 吉祥(岐阜大学)

### 【司会】

貞広 齋子(千葉大学)

前原 健二(東京学芸大学)

# プログラム 第三日

8月27日(日)

公開シンポジウムⅡ

課題研究Ⅱ

課題研究Ⅲ

若手交流会

公開シンポジウムⅡ 8月27日(日) 9:00-12:00

公開シンポジウムⅡ  
「過去」を伝え、教えることは可能か  
～歴史と記憶をつなぐ

ロシアによるウクライナ侵攻の主要背景の一つとされる、中東欧とロシアの間での歴史認識をめぐる不一致、記憶をめぐる政治は、日本と中国・韓国など東アジアにおける歴史認識問題や、ドイツにおけるネオナチ問題などと連なる問題であり、日本で生きる私たちにとって他人事ではない。同時に、自分たちの足もとに目を転じれば、今、学校の教室をはじめとした教育現場は、国籍、人種、性、宗教、障がい、階層、価値観など、きわめて多様な子ども・若者で構成される場になっており、ここでも、歴史認識や文化的記憶の継承は容易なことでない。ミクロにもマクロにも多元化したこの社会・世界において、私たちはいかにして、他者と武力・暴力を交えずに共存し、歴史認識や文化的記憶の継承に向き合いながら、「過去」を教え、子どもたちを育てていくのか。

この場では、歴史認識をめぐる不一致や記憶をめぐる政治が、日本から遠く離れた地域における、あるいは私たちの日常からは縁遠い、大文字の政治なのではなく、日本の教育現場(教室)における歴史認識・文化的記憶の継承への鋭い問いかけであるととらえ、歴史と記憶をつなぐこれからの実践と研究のあり方を論じ合いたい。

【同時通訳付】

【シンポジスト】

キャロル・グラック Carol Gluck(コロンビア大学)

李 舜志(法政大学)

菅間 正道(自由の森学園高等学校)

古賀 徳子(ひめゆり平和祈念資料館)

【指定討論者】

山名 淳(東京大学)

【司会】

北村 友人(東京大学)

平塚 眞樹(法政大学)

課題研究Ⅱ 8月27日(日) 9:00-12:00

課題研究Ⅱ  
探究のなかで「他者」と出会う

【登壇者】

佐藤 隆之(早稲田大学)  
今井 貴代子(大阪大学)  
吉田 敦彦(大阪公立大学)

【司会】

岡部 美香(大阪大学)  
北山 夕華(大阪大学)

## 課題研究Ⅲ

### 課題研究Ⅲ

#### 教育学研究を日本から国際発信する－若手研究者たちからの問題提起－

##### 【概要】

本セッションの目的は、日本における教育学研究の成果を国際的に発信していくうえで、いかなる課題があるかについて、とくに若手研究者たちの視点から問題提起することにある。昨年の課題研究(Creating Educational Research as International Knowledge)での議論を踏まえ、米澤彰純・国際交流委員が主導する科研プロジェクトと連携しながら、国際交流委員会では若手研究者たちが英語で論文を書くための支援を行ってきた。今年の課題研究では、そうした経験を踏まえ、教育学研究を日本から国際発信するにあたっての課題などについて、若手研究者たちに積極的に議論してもらうことを目指している。

International Contribution to Education Research from Japan: Proposals from Early Career Researchers

The purpose of this session is to discuss the challenges in disseminating the results of education research in Japan internationally, especially from the perspective of early career researchers. Based on the discussions in the session organized by the International Exchange Committee last year (Creating Educational Research as International Knowledge), the Committee, in cooperation with the KAKEN Project led by Professor Akiyoshi Yonezawa of Tohoku University, has been supporting early career researchers in writing papers in English. Based on such experiences, this year's session aims to encourage early career researchers to actively discuss issues related to the international contribution of education research from Japan.

## 若手交流会

8月27日(日)の16:30~18:00 に対面(1号館109)およびオンライン(Zoom)のハイフレックス形式で開催します。

会の詳細は、学会ホームページ・大会用特設ウェブサイトをご参照ください。

## IV 学会事務局からのお知らせ

### 日本教育学会 特別課題研究・課題研究委員会・地区研究活動 報告書・資料集頒布のお知らせ

#### ○特別課題研究

101 教育改革の総合的研究 第1集	[2001年8月]	500円
102 教育改革の総合的研究 第2集	[2002年8月]	500円
104 教育改革の総合的研究 第4集	[2004年8月]	800円
203 教師教育の再編動向と教育学の課題 研究集録〈2〉	[2006年8月]	500円
301 教育改革の国際比較	[2007年9月]	3,400円
302 教育研究における東アジアの歴史認識	[2009年8月]	500円
303 東アジアの教育－その歴史と現在－(資料集)	[2011年8月]	500円
304 東アジアの教育－その歴史と現在－(最終報告書)	[2012年8月]	500円
305 現職教師教育カリキュラムの教育学の検討	[2012年9月]	500円
309 東日本大震災と教育－原発・エネルギー問題の教育実践課題を中心として－	[2013年2月]	無料
401 スクール・セクハラ問題の総合的研究	[2017年5月]	500円

#### ○課題研究委員会

D-2 「人間の尊厳と共生」の教育研究(平和教育・環境教育資料付)	[2002年8月]	500円
-----------------------------------	-----------	------

#### ○地区研究活動

東北-11 新しい時代の学校システムを考える －教育のグローバル化への国際バカロレア(IB)の可能性－	[2017年3月]	300円
東北-12 新しい時代の学校システムを考える－大学と地域連携の新たな課題－	[2018年3月]	300円
東北-13 新しい時代の学校システムを考える－大学入試改革の理念と実態－	[2019年3月]	300円
東北-14 新しい時代の学校システムを考える－戦間期の教育政策変容から現代を問う－	[2020年3月]	300円
東北-15 新しい時代の学校システムを考える－教育と福祉の連携を問い直す－	[2022年3月]	300円
東北-16 新しい時代の学校システムを考える－『令和の日本型学校教育』における教員研修の再検討－	[2023年3月]	300円
関東-1 学校での人権侵害としてのセクシャル・ハラスメントをどう防ぐか	[2006年8月]	300円
関東-3 中学生・高校生のセクシュアル・マイノリティの子どもたちと教育に関する		

研究・実践動向／男女共学制下のジェンダー平等教育—北関東諸県を中心に—

	[2009年8月]	300円
関東-4 シンポジウム「環境教育の新たな展開と課題」	[2011年6月]	300円
関東-5 教員養成において教育学教育の果たす役割	[2012年8月]	300円
関東-6 スクール・セクハラ問題と教育学の課題	[2013年3月]	300円
関東-7 見えない学力格差の是正—子どもの放課後の学びの支援—	[2014年5月]	300円
関東-8 学校教育とセクシュアリティ問題—多様な性と教育にどう向き合うか—	[2017年7月]	300円
東京-4 シンポジウム「教師教育を問い直す」	[2019年8月]	300円
中部-1 教養と学力	[2011年6月]	350円
近畿-8 災害の記憶と教育—阪神・淡路大震災の想起と追想をめぐる討議—	[2013年7月]	300円
近畿-9 私の教師生活4—戦後教育実践に学ぶ—	[2017年8月]	300円
近畿-10 私の教師生活5—戦後教育実践に学ぶ—	[2018年6月]	300円
近畿-11 特別支援教育の現場における保護者と学校のズレはどこから生まれるのか？	[2019年4月]	300円
近畿-12 私の教師生活6—戦後教育実践に学ぶ—	[2019年8月]	300円
中国-7 教育学研究の意味と課題を考える—日独の比較—	[2006年6月]	300円
中国-9 全国学力調査を教育の改善にどう生かすか／教育研究の細分化は何をもたらしたか (公開シンポジウム・研究会 成果報告書)	[2008年4月]	300円
中国-11 リスク社会の捉え直しと教育の課題	[2013年7月]	300円
中国-12 次世代の教師を育てる教員養成関連授業の可能性—教育学と教科教育学の対話と協働—	[2015年8月]	300円
中国-13 社会保障と教育の接続をめぐって	[2018年3月]	300円
四国-11 「日常」と教育理論—教育学的「実験」国家としての旧東ドイツ	[2017年6月]	300円
四国-12 シンポジウム報告書「教員養成改革の方向性」	[2017年6月]	300円
中国・四国-1 教育格差と教員養成の課題	[2020年4月]	300円
中国・四国-2 学校の日常が突然に引きはがされたとき —戦争、自然災害、パンデミック下の学校教育—	[2021年3月]	300円
中国・四国-3 ポストコロナの教育を展望する	[2021年11月]	300円
中国・四国-4 SDGs時代の教育 —教育・学習における変革・変容(transformation)にどう向き合うか—	[2021年3月]	300円

○そのほか資料コピー

以下の資料は冊子が在庫切れのため、1枚10円で資料コピーを頒布いたします。

複写-1 「戦後教育学の遺産」の記録(資料集 No.1) [2013年8月] 610円(61枚)

複写-2 <日本教育学会・公開シンポジウム>原発事故・放射能被災を学校教育はどう受け止めるか

[2014年3月] 690円(69枚)

複写-3 東日本大震災と教育に関する研究(全体編その1)

—子ども、園・学校は津波被災と原発災害にどう向きあったか、向きあっているか—

[2014年3月] 1730円(173枚)

複写-4 「戦後教育学の遺産」の記録(資料集 No.2)

[2014年8月]570円(57枚)

複写-5 東日本大震災の大津波被災とその後を子ども・教師・学校はどう生きているか

[2015年1月] 420円(42枚)

複写-6 養護教諭が体験した東日本大震災

—地震と津波発生時、避難所運営と避難者ケア、学校再開後の子どもたちのケアと教育—

[2015年2月] 440円(44枚)

複写-7 東日本大震災とそれ以降における教育委員会や学校の状況に関する調査報告書

[2015年3月] 870円(87枚)

複写-8 東日本大震災と教育に関する研究(全体編その2)

—「3.11」以降の子ども・教師・学校の経験と実践・支援・政策・研究の課題—

[2015年3月] 2510円(251枚)

複写-9 「戦後教育学の遺産」の記録(資料集 No.3)

[2015年8月] 480円(48枚))

### 【申し込み方法】

・下記申込先まで希望する冊子の番号・記号と送付先住所をお知らせください。

報告書送付時に、代金と送料実費をご請求しますので、郵便振替にてご送金ください。なお、請求書類が必要な場合は、申し込み時に種類と書式等をお知らせください。

・このリストは2023年6月現在のものです。

申込先：日本教育学会事務局

電話：03-3253-6630 FAX：03-3254-0477 E-MAIL：jimu@jera.jp

住所 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-15-2 クレアル神田 102

## 祝 日本教育学会第82回大会

- 小学校・中学校・高等学校教科書
- 副読本・教育用図書・参考書
- デジタル教科書・教材

日本文教出版の志—Purpose

心が動く、その先へ。

これが好き。なんでだろう？もっと、知りたい。

心が動く、瞬間。それは、「学び」のはじまり。

感じ、考え、想像し、表してみる。  
そこから生まれる、一つひとつが、あなただけのもの。

それを贈り合ったら、うれしくなる。  
心が満ちて、次の「やってみたい」が湧いてくる。  
ほかの誰かと混ざり合ったら、ちがう景色が見えてくる。

そんな学びが、あなたの、みんなの世界を耕していく。

私たちは、学びのはじまりを大切にし、  
その先に広がる一人ひとりの未来をともに育みたい。

心が動く、そのそばで。

どんなに時代や社会が変わっても、大切にしたいこと。

その想いを、志（Purpose）に込めています。

私たちはこれからも、一人ひとりの心が動く瞬間に寄り添いながら、  
その先に広がる未来をともに育んでいきます。

未来をになう子どもたちへ  
**日本文教出版**  
<https://www.nichibun-g.co.jp/>



日本文教出版株式会社

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5 TEL: 06-6692-1261  
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16 TEL: 03-3389-4611  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14 TEL: 092-531-7696  
東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F・B TEL: 052-979-7260  
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1 TEL: 011-764-1201

## 「文部科学省」編著の書籍



### ■ 生徒指導提要 令和4年12月改訂〈コンパクト版・関連法令付録〉

最新刊

A5判／336頁／定価935円（本体850円＋税）／ISBN978-4-86371-653-7

生徒指導に関する学校、教職員に向けた文部科学省による基本的指導書「生徒指導提要」が、社会情勢の変化や今日の課題を踏まえ12年振りに大幅改定された。「いじめ防止対策推進法」「自殺対策基本法」「教育機会確保法」等、生徒指導を進める上で欠くことのできない主要法令も付録。研修、会議等に携行しやすいコンパクトサイズ（A5判）で、生徒指導担当教員をはじめ全教員が必携の1冊。



### ■ 特別支援教育における交流及び共同学習の推進 ～学校経営の視点から～

最新刊

全国特別支援教育推進連盟 編集／A4判／256頁／定価2,420円（本体2,200円＋税）／ISBN978-4-86371-651-3

全国特別支援教育推進連盟が文部科学省から委託を受けた調査研究報告書に、あらたに加筆、書籍化した。交流及び共同学習の意義や今後の在り方を検討するほか、実践校の校長からの「提言」を掲載。また、教育委員会を対象としたアンケートから、障害のある子供の居住地校交流の実態を明らかにする。先進的な取組を行っている21校の実践も紹介。



### ■ 学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン

#### ＋学校安全推進のための教職員向け研修・訓練実践事例集

A4判／カラー262頁／定価1,980円（本体1,800円＋税）／ISBN978-4-86371-611-7

自然災害や火災、突発的な事件、事故などから児童生徒の生命を守り、安全を確保するために、学校の「危機管理マニュアル」は常に見直しと改善、そして実践的な研修や訓練が求められる。そのための指針として文部科学省が令和3年に発表したガイドラインと実践事例集を一冊にまとめて書籍化。



### ■ 障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～

A4判／480頁／定価1,980円（本体1,800円＋税）／ISBN978-4-86371-613-1

文部科学省が令和3年6月に発表した「障害のある子供の教育支援の手引」と「小学校等における医療的ケア実施支援資料」をまとめて書籍化。障害種ごとに「教育的ニーズ」を詳細に記し、就学相談などで必要な判断・支援を行うときの基本的な考え方を示す。さらに、医療的ケア児の受け入れにあたって理解しておくべきことも網羅。



ジアース  
教育新社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル  
TEL 03-5282-7183 / FAX 03-5282-7892  
E-mail info@kyoikushinsha.co.jp URL https://www.kyoikushinsha.co.jp/



## 北大路書房

〒603-8303  
京都市北区紫野十二坊町12-8  
☎075-431-0361 FAX 075-431-9393  
https://www.kitaohji.com(価格税込)

### スクールリーダーのための 教育効果を高めるマインドフレーム

ー可視化された学校づくりの10の秘訣ー J. ハッティほか編著 原田信之訳者代表 四六・248頁・定価2970円 学校改善を成功へと導くリーダーシップとは？ 教育指導職が「指導および自身の役割をどう考えるのか」は、生徒と教師「両方」の学びに大きな影響を与える。可視化された学習研究の成果を学校改善の実践へとつなぐ。

### エピソードで学ぶ統計リテラシー

ー高校から大学、社会へとつながるデータサイエンス入門ー 山田剛史、金森保智編著 A5・216頁・定価2310円 朝食を食べないと学力は低下するのか？ ガチャでレアキャラが当たる確率は？ 身近なエピソードや問いから統計に関する基本的な知識・スキルを学び、数学的センスを養う。

### 国際バカロレア教育に学ぶ授業改善

ー資質・能力を育む学習指導案のづくり方ー 御手洗明佳、赤塚祐哉、井上志音編著 A5・192頁・定価2640円 概念型学習理論や逆向き設計論、ルーブリック評価等、国際バカロレア教育で採り入れられている教育理論を日々の授業で活用することを提案。「問い」により駆動される授業づくりへと誘う。

### 子どもの遊びを考える

ー「いいこと思いついた！」から見えてくることー 佐伯 胖編著 四六・248頁・定価2640円 「遊び=自発的な活動」というのは本当か？！ 「いいこと思いついた！」という現象を切り口に、「中動態」や「天然知能」などの概念を参照しながら、子どもの「遊び」の本質に迫る。

### 学習科学ハンドブック 第二版 第1・2・3巻

R. K. ソーヤー編/森 敏昭、秋田喜代美他監訳 定価3850円～定価4180円

### 研修設計マニュアル

鈴木克明著 定価2970円

### ようこそ、一人ひとりをいかす教室へ

C. A. トムリンソン著/山崎敬人他訳 定価2640円

### メタ認知

三宮真智子編著 定価3300円

### 教材設計マニュアル

鈴木克明著 定価2420円

### 一人ひとりをいかす評価

C. A. トムリンソン他著/山元隆春他訳 定価2420円

### 21世紀型スキル

P. グリフィン他編/三宅なほみ監訳/益川弘如他編訳 定価2970円

### 学習設計マニュアル

鈴木克明、美馬のゆり編著 定価2420円

### 初めての教育論文

野田敏孝著 定価1650円

## SDGs時代にみる教育の普遍化と格差

各国の事例と国際比較から読み解く

澤村信英、小川末空、坂上勝基 編著

◎5,280円

## 14歳からのSDGs あなたが創る未来の地球

水野谷優 編著 國井修、井本直歩子、林佐和美、加藤正寛、高木超 著

◎2,200円

## 北欧の教育再発見 ウェルビーイングのための子育てと学び

中田麗子、佐藤裕紀、本所恵、林寛平、北欧教育研究会 編著

◎2,420円

## 世界の保育の質評価 制度に学び、対話をひらく

秋田喜代美、古賀松香 編著

◎3,520円

## マイノリティ支援の葛藤 分断と抑圧の社会的構造を問う

呉永鎬、坪田光平 編著

◎3,850円

## イタリア・ピストイアの乳幼児教育

子どもからはじまるホリスティックな育ちと学び

星三和子 著

◎3,300円

## 国際共修授業 多様性を育む大学教育のプラン

青木麻衣子、鄭惠先 編著

◎2,530円

## 特殊教育・インクルーシブ教育の社会学

サリートムリンソン 著 古田弘子、伊藤駿 監訳

◎4,950円

## イタリアのフルインクルーシブ教育

障害児の学校を無くした教育の歴史・課題・理念

アントネッロ・ムラ 著 大内進 監修 大内紀彦 訳

◎2,970円

## 外国につながる若者をつくる多文化共生の未来

協働によるエンパワメントとアドボカシー

徳永智子、角田仁、海老原周子 編著

◎2,640円

## 公共政策学教育の現状分析

ポリシー、カリキュラム、授業実践

村上紗央里、新川達郎 著

◎4,950円

## 社会関係資本 現代社会の人脈・信頼・コミュニティ

ジョン・ファイールド 著 佐藤智子、西塚孝平、松本奈々子 訳 矢野裕俊 解説

◎2,640円

## 創造性と批判的思考 学校で教えるべきことの意味はなにか

OECD教育研究革新センター 編著 西村美由起 訳

◎5,940円

## 知識専門職としての教師

教授学的知識の国際比較研究に向けて

ハナー・ウルファーツ 編著 OECD教育研究革新センター 編 西村美由起 訳

◎4,940円

## こころの発達と学習の科学

デジタル時代の新たな研究アプローチ

パトリシア・K・クール、スーシャーン・リン、ソニア・グエリエロ、ダーク・ヴァンダム 編著

OECD教育研究革新センター 編 豊岩晶、篠原真子、篠原康正 訳

◎4,940円

## 学習の環境 イノベティブな実践に向けて

OECD教育研究革新センター 編著 立田慶裕 監訳 杉野電美、武寛子、山内乾史、

三宮真智子、大谷和夫、西森年寿、森利枝、佐藤智子、岩崎久美子、荻野亮吾 訳

◎4,940円

## 社会情動的スキルの国際比較

教科の学びを超える力〈第1回OECD社会情動的スキル調査(SSSES)報告書〉

経済協力開発機構(OECD) 編著

◎3,960円

## 高等教育マイクロレデンシャル

履修証明の新たな次元

経済協力開発機構(OECD)、加藤静香 編著 米澤彰純 解説 濱田久美子 訳

◎3,960円

## PISA2018年調査 評価の枠組み

OECD生徒の学習到達度調査

経済協力開発機構(OECD) 編著 国立教育政策研究所 監訳

◎5,940円

## 諸外国の教育動向 2021年度版

文部科学省 編著

◎3,960円

## 図表でみる教育 OECDインディケータ(2022年版)

経済協力開発機構(OECD) 編著

◎9,460円

この広告をご覧のお客様限定! 広告内の書籍や関連書の購入をご希望の方は、右のQRコードから販売ページにてお申込みいただけますと、期間限定で2割引・送料無料で承ります。ぜひご利用ください!(公費対応可)



明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5

<https://www.akashi.co.jp/>

TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174

\*価格税込 \*目録送呈

## 日本の性教育とその歴史を考える上で必須の資料!

日本家族計画協会機関紙

# 家族計画 全9巻【復刻版】

THE FAMILY PLANNING

人工妊娠中絶はおろか避妊すら禁じられた戦前の「産めよ殖やせよ」政策が一転した敗戦直後。民間団体として日本の家族計画運動を担い、性教育をおとにも子どもにも展開した日本家族計画協会は、草の根の受胎調節実地指導員(助産師や保健師)と手を携え、企業へ、労働組合へ、農村へ、炭鉱へ、家庭へとダイナミックな運動を展開した。その軌跡をたどる貴重資料! 1954年~1983年

揃定価 27万円+税(税込 297,000円)

全3回配本 第1回配本刊行中!

B4判・上製・総約2900ページ

推薦 阿藤誠・上野千鶴子・荻野美穂・草野いづみ・藤野豊

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-28

<https://rikka-press.jp>

六花出版

TEL 03-3293-8787

FAX 03-3293-8788

E-Mail [info@rikka-press.jp](mailto:info@rikka-press.jp)

**はじめてつくる「探究」の授業**  
 「総合的な学習・探究の時間」を極めるためのワークシート  
 佐藤功 編著  
 B5並製・一〇四頁 ¥一、六五〇  
 「総合」「探究」を教えられる教員になる！授業づくりにも役立つダウンロード可能な指導書付き。

**分断社会と若者の今**  
 吉川徹、狭間諒多朗 編  
 四六並製・二八八頁 ¥二、七五〇  
 若者は本当に保守化したのか。大規模社会調査データから、若者の「今」を客観的に描き出す。

**学力格差を克服する学校文化**  
 効果のある学校のエスノグラフィ  
 西 徳宏 著  
 A5上製・四四六頁 ¥六、九三〇  
 格差社会のなかで実現される公正な学校教育とは。「効果のある学校」が持つ文化の成立と継承の実態を描き出す。



「アドバイジングで“アドバイス”をしてしまっていないか？」  
 学習者の自律性を育成する  
 アドバイジングについて知りたい  
 教師やチューターの方、研究者の方へ。本書には、前に進もうとする学習者とアドバイザーがどのように向き合うかのヒントが沢山つまっています！

## リフレクティブ・ダイアローグ

学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング



加藤聡子、ジョー・マイナード 著

A5 並製・408 頁 ¥4,400

ISBN978-4-87259-762-2 C3080

ためしよみ

〒565-0871 吹田市山田丘 2-7  
 大阪大学ウエストフロント  
<https://www.osaka-up.or.jp>

**大阪大学出版会**

TEL 06-6877-1614  
 FAX 06-6877-1617 価格税込  
 E-Mail eigyo@osaka-up.or.jp

## 子ども・若者の居場所と貧困支援

学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組

### 子ども・若者の居場所と貧困支援

学習支援・学校内カフェ・ユースワーク等での取組

横井敏郎 著



編著 **横井 敏郎**

北海道大学大学院  
 教育学研究院教授

貧困のもとで  
 日々の学習と生活に  
 困難を抱える  
 子ども・若者を  
 いかに支えて  
 いくのか

本書では経済的支援だけでなく彼らを支える関係づくりに注目し、学習支援事業、高校内居場所カフェ、ユースセンター等を紹介し、その可能性を提示する。

●A5判・192ページ  
 ●定価2,420円(税込)  
 ●ISBN978-4-7619-2909-1

## 世界に学ぶ 主権者教育の最前線

生徒参加が拓く  
 民主主義の学び



成年年齢、選挙権年齢が相次いで引き下げられる中、高校での生徒への市民意識の涵養が喫緊の課題となっている。

本書では世界の事例を紹介し、今後の日本の主権者教育の在り方を提案する。

●四六判・192ページ ●定価2,420円(税込)  
 ●ISBN978-4-7619-2908-4

著

荒井 文昭(東京都立大学人文社会学部教授)  
 大津 尚志(武庫川女子大学学校教育センター准教授)  
 古田 雄一(筑波大学人間系助教)  
 宮下 与兵衛(東京都立大学特任教授)  
 柳澤 良明(香川大学教育学部教授)

詳しくは、こちらをクリックして「学事出版」ホームページをご覧ください。

**学事出版**

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F TEL03-3518-9016 FAX 03-0120-655-514

【新刊】一般科学教授学綱要  
 教員養成・授業・研究のための基礎と方向づけ  
 ディートリッヒ・ベンナー 著／牛田伸一 訳

学ぶ者の経験や意味は科学によって一般化できるか。1つの知識形式やパラダイムに位置づけられない、科学を通じた陶冶の連関を教育から導く。  
 [A5判・380頁・5000円]

**フンボルトの陶冶理論と教育改革**  
 学問中心カリキュラムの再考

宮本勇一 著

W・v・フンボルトの思想と学校教授の原理を探究。自己と世界の方法的対峙という陶冶のありようから、知の様態としての学問への見方、および学校教育・教育改革を再考する。[A5判・552頁・6000円]



**ディープ・アクティブラーニングのはじめ方**  
 つながりのなかに主体性を取り直す

山川修・早川公 著

学習者自身が多角的に問題を解決できるよう、「問いを立てる」と「信頼関係を創る」ことの要素を採り入れた新たな方法と考える枠組みを提案する。  
 [A5判・136頁・2200円]



**コトのデザイン**

発想力を取り戻す

谷内真之助・山川修 著

ことからの仕組みや関係性をひもとき、学習者自身が複層的に構想していく方法を提案。アイデアを生み出し表現するプロセスを培う楽しさとその多様な意義をあらわす。[A5判・152頁・2500円]

**討議倫理と教育**

アーベル、ヨナス、ハーバーマスのあいだ

丸橋静香 著

討議という倫理は自らや互いをどう支えるか。向かい合うもの同士の合意や承認、意のままにならないものへの応答をめぐる関係を、責任や対話実践の問いから解き明かす。[四六判・288頁・3900円]

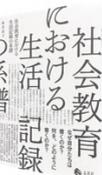


**ドイツの幼児教育におけるビルドゥング**

子どもにとっての学びを問い直す

中西さやか 著

ドイツの幼児教育の政策動向とそこにおけるビルドゥングという言葉の意味や理念を考察。自らの経験を理解し意味づけていく、幼児期に特有な学びのプロセスを描く。  
 [四六判・242頁・4000円]



**社会教育における生活記録の系譜**

新井浩子 著

戦前戦後の日本各地の生活綴方・生活記録実践の展開を検証。書き合い読み合うことの学びの系譜を解き明かし、生活を書く・読むという行為による表現や経験を顧みる。[A5判・442頁・4500円]

**エンパワーメント・ギャップ**

主権者になる資格のない子などいない

メイラ・レヴィンソン 著／渡部竜也、桑原敏典 訳

市民権行使の機会や能力における子どもの格差を米国の学校事例から分析し、多様な差異に向けた民主的な社会参加への教育の役割を探る。  
 [A5判・422頁・4500円]



**春風社**

〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 53 横浜市教育会館 3 階

電話：045-261-3168 / FAX：045-261-3169 info@shumpu.com

\*表示価格はすべて税別です

\*近刊\*

**学び直しとリカレント教育**  
 出相泰裕編著 ● 大学開放の新しい展開  
**高校生の進路・生活と「教育的カテゴリー」**  
 中村高康 / 中村知世 / 小黒恵編著 ● ゆらぐ高校教育をとらえなおす  
 \*書名は変更する可能性があります\*

**発達** 173 特集  
 ① 保幼小の連携——架け橋をめざして  
 ② インクルーシブな保育へ  
 保育内容の小学校へのつながりを探究する(特集1)、多様な時代におけるインクルーシブな保育を様々な視点から探る(特集2) 特集の2本立て。  
 16500円

幼児期の教育と小学校教育をつなぐ  
**幼保小の「架け橋プログラム」実践のためのガイド**  
 文科省「架け橋プログラム」に準拠したチェックリスト付き。  
 27500円

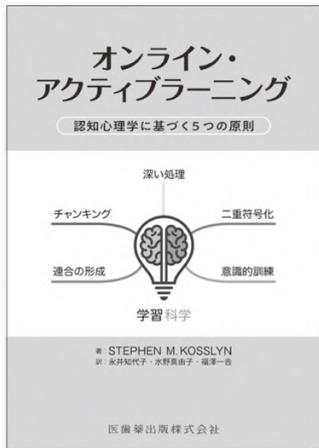
道徳教育学フロンティア研究会編 ● 歴史・理論・実践  
**道徳教育はいかにあるべきか**  
 55000円

シリーズ学級経営  
 田中耕治監修  
 ① **学級経営の理論と方法** 田中耕治編著  
 起源から現代の方法論まで、「学習」と「生活」を一体とした学級経営のあり方を探究。学級と子どもたちに向き合う理論と実践知を示す。28600円  
 ② **事例で読む学級経営** 岸田蘭子 / 盛永俊弘編著  
 小学校から中学校まで、それぞれの段階における学級経営の実践事例を、日々学校で子どもたちと向き合う9人の教師が語る。  
 27500円

**生徒指導提要 改訂の解説とポイント**  
 中村豊編著 ● 積極的な生徒指導を目指して 生徒指導の「基本的な進め方」を踏まえ、事例を読み解き指導の方向性を示す、これからの基本書。26400円  
**不登校の理解と支援のためのハンドブック**  
 伊藤美奈子編著 ● 多様な学びの場を保障するために 「教育機会確保法」のその後をめぐり、現状・最新の動向から支援までをまとめた関係者の必携書。28600円

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 \* 表示価格税込 目録呈  
 TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/



# オンライン・アクティブラーニング

## 認知心理学に基づく5つの原則

Stephen M. Kosslyn 著  
 永井知代子・水野真由子・福澤一吉 訳  
 A5判 128頁 定価 2,970円(本体 2,700円+税10%)  
 ISBN978-4-263-26671-7



こちらを読み取ると  
 詳しい情報がご覧いただけます

オンラインでも対面でも、  
 授業がおもしろくなる！効果的な授業ができる！

- アクティブラーニングや学習科学の基礎知識をわかりやすく簡潔に解説
- 学習科学の5つの原則「①深い処理、②チャンキング、③連合の形成、④二重符号化、⑤意識的訓練」をそれぞれ解説し、授業での活用方法を具体的に提案
- 5つの原則の組み合わせ方、モチベーションをもたせる方法、演習と活動の方法などの応用方法を掲載
- オンライン授業だけでなく、対面授業でもすぐに活かせる、オンライン授業ならではの有効な実施方法も紹介
- 日本語版限定の用語集を掲載

### おもな目次

- 第1章 アクティブラーニングとは何か？なぜ重要なのか？
- 第2章 学習科学
- 第3章 原則① 深い処理
- 第4章 原則② チャンキング
- 第5章 原則③ 連合の形成
- 第6章 原則④ 二重符号化
- 第7章 原則⑤ 意識的訓練
- 第8章 原則の組み合わせ
- 第9章 内発的・外発的モチベーション
- 第10章 演習と活動



医歯薬出版株式会社

<https://www.ishiyaku.co.jp/>

〒113-8612 東京都文京区本駒込 1-7-10

TEL03-5395-7610 FAX03-5395-7611

- 平成から令和。岐路に立つ高校教育の行方を議論する。7年ぶりの第3弾。  
**続々・移行支援としての高校教育** 変動する社会と岐路に立つ高校教育の行方  
 小野善郎、保坂亨 編著  
 ■四六判/上製/296頁 ◎定価3080円
- 震災やコロナ禍で激変した社会環境の中で改めて問う、子ども学の新視点。  
**未来をひらく子ども学** 子どもを取り巻く研究・環境・社会  
 坂越正樹 監修 八島美菜子、小笠原文、伊藤駿 編著  
 ■A5判/並製/240頁 ◎定価2860円
- 改訂版生徒指導提要に準拠、時代に応じて変化した生徒指導の要点を網羅。  
**「自己指導能力」を育てる生徒指導** 一人一人の自己実現を支援する  
 松浪健四郎 監修 齋藤雅英、宇部弘子、市川優二郎、若尾良徳 編著  
 ■A5判/並製/242頁 ◎定価2860円
- メンタルヘルス主流の時代に思春期絶滅の危機を救え！シリーズ第5弾。  
**思春期の心と社会** メンタルヘルス時代の思春期を救え  
 小野善郎 著  
 ■四六判/並製/208頁 ◎定価1760円
- 国際的教育活動「SEL」の概要・導入・アセスメント・日本の実践例を紹介。  
**ソーシャル・エモーショナル・ラーニング(SEL) 非認知能力を育てる教育フレームワーク**  
 渡辺弥生、小泉令三 編著  
 ■A5判/並製/248頁 ◎定価2860円
- 子どもの心の健康と適応を守る恒常的安定実施への壁とその突破口を探る。  
**日本の心理教育プログラム** 心の健康を守る 学校教育の再生と未来  
 山崎勝之 編著  
 ■A5判/並製/308頁 ◎定価2970円
- 学校と制度の間における「学校の中」「学校を取り巻く」問題の現象を問う。  
**教育問題の心理学 何のための研究か？**  
 都筑学 監修 加藤弘通、岡田有司、金子泰之 編著  
 ■A5判/並製/312頁 ◎定価2970円
- 学校、スポーツ、医学など多様な現場での自己調整学習の研究・実践を紹介。  
**子どもと大人の主体的・自律的な学びを支える実践** 教師・指導者のための自己調整学習  
 中谷素之、岡田涼、犬塚美輪 編著  
 ■A5判/並製/232頁 ◎定価3080円



福村出版

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-14-11

TEL 03-5812-9702 FAX 03-5812-9705

◎定価は税込み価格です。  
<https://www.fukumura.co.jp>

## 教育観の転換—よき仕事人を育てる—

三好信浩著

予価2750円

## 岡倉由三郎と近代日本

平田諭治著

12100円

## ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント

原田信之著

2750円

## 新しい歴史教育論の構築に向けた日独歴史意識研究

宇都宮明子著

10450円

## 日本学術振興会の設立に関する研究

山中千尋著

11000円

## 地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—

北野秋男著

7700円

## 幼児教育と小学校教育における言葉の指導の接続

吉永安里著

6050円

## 特別支援学校におけるICFの活用に関する研究

清水 浩著

8800円

## 理科教育におけるアナロジーに基づく教授学習ストラテジー研究

内ノ倉真吾著

9900円

## 近現代日本教員史研究

船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著

4950円

## レリバンスを構築する歴史授業の論理と実践

二井正浩編著

2750円

## 書くことの指導における相手意識の研究

森田香緒里著

8800円

## 現代韓国における歴史教育の立論と構想

梁豪煥著／福田喜彦・井上奈穂・金聖玟訳

4950円

## 低学年児童の情動に対する教師の支援

芦田祐佳著

7700円

## 戦前の東京市の「特別な教育的配慮・対応」の研究

の初等教育と

石井智也著

8250円

## 濃尾震災(1891年)における子ども救済と特別教育史研究

能田 昂著

7700円

## 日本数学教育史研究 上・下巻

上垣 渉著

各巻22000円

## 近森一重の音楽教育理論の研究

島田郁子著

8800円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34  
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

# 風間書房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>

メールアドレス [pub@kazamashobo.co.jp](mailto:pub@kazamashobo.co.jp) (価格税込)

## 批判的思考と道徳性を育む教室

—「論争問題」がひらく共生への対話

●ネル・ノディングス/ローリー・ブルックス 著

山辺恵理子 監訳, 木下慎・田中智輝・村松灯 訳 定価2,970円

答えの出ない「論争問題」を授業でどう扱い、どう子どもたちとともに考えていけばよいのか。対話が紡ぐ共生への道。



## ユネスコ・教育を再考する

—グローバル時代の参照軸 定価2,200円

●日本教師教育学会第10期国際研究交流部・

百合田真樹人・矢野博之 編訳著/他訳著

“Rethinking Education” 待望の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の基盤議論を読み解く。重要語句や概念群の解説付。



## 現代アメリカ教員養成改革における社会正義と省察

—教員レジデンシープログラムの展開に学ぶ

●高野貴大 著

定価5,280円

社会正義を志向する教師とはどのように養成されるのか。多文化社会アメリカの事例からその方法をさぐる。



## スクールティーチャー

—教職の社会的考察

定価4,400円

●ダン・ローティ 著 / 佐藤 学 監訳

織田泰幸・黒田友紀・佐藤仁・榎景子・西野倫世 訳

1975年発行の教師教育改革の起爆剤となった名著をついに翻訳。現在にも通じる教師の直面する複雑な現実を明快に解明。



未来の教育を創る教職教養指針 ●山崎準二・高野和子 編集代表

### 8 道徳教育

●下司晶 編著

定価2,420円

道徳教育の方法を探究し「実践と理論」との統合へ挑戦する。



### 10 生徒指導

●庄井良信 編著

定価2,310円

「生徒指導提要」をふまえた生徒指導の理論的解説・臨床教育的なアプローチを紹介。



やさしく学ぶ教職課程

### 教育の方法・技術とICT

●古賀毅・高橋優 編著

定価2,310円

教育方法に関する基礎的な知識・技術と、ICTについての活用能力の獲得をめざす。



### 幼児と児童のための教育とICT活用

●末松加奈 編著

定価1,980円

ICT活用の進み、保育所・幼稚園、小学校、特別支援教育等のICT活用方法を取り上げ紹介。

## 動物園と水族館の教育

—SDGs・ポストコロナ社会における現在地

●朝岡幸彦 編

定価2,090円

動物園・水族館がもつ独自の教育的価値と新たな可能性を提言する。



## 現代学校改革の原理と計画のために

●宮盛邦友 著

定価2,750円

学校・公教育の事実に基づき私達の教育の規範をつくることをめざす。

早稲田教育ブックレット

●早稲田大学教育総合研究所 監修

### 28 大学入試、どう変わるか

—新学習指導要領×大学入学者選抜

定価1,210円

### 29 早稲田大学教育・総合科学学術院オンライン授業の現在地

—学生による自由記述の分析から

定価1,100円

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1  
<http://www.gakubunsha.com>

# 学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012  
E-mail: [eigyog@gakubunsha.com](mailto:eigyog@gakubunsha.com)

# 公教育を問い直す

〔学校の公共的使命、人材養成ととまらない教育という営為の価値、教職の専門性〕  
〔公教育〕にかかわる問いと課題に鋭く迫る  
編集委員 青木栄一・石井英真・下司晶・佐久間卓紀・仁平典宏・濱中淳子・丸山英樹 五十篇編

前原健二

〔教員の働き方、学校の運営、学校制度の構成―三つの位相において戦後ドイツの教育はどこに課題を残し、改革を進めてきたか、改革過程を教育制度の理論として描く〕

# 現代ドイツの教育改革

◎ 学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性

矢野智司・井谷信彦 編

〔教育とは、時代批判的な歴史的世界の創造的行為―近代教育の思考法を問いただし、課題に 대응する教育的思考の新たな形を構築する試み〕

# 教育の世界が開かれるとき

◎ 何が教育学的思考を発動させるのか

広瀬裕子 編

〔戦後の教育と教育学を包括的にマッピングできるグラウンド・セオリーはどこに? 変容しながら増殖する近代教育を掴まえる〕  
執筆者 石井英真・大橋敏行・刈谷剛彦・北村友人・小玉重夫・清田夏代・長嶺宏作・広瀬裕子

# カリキュラム・学校・統治の理論

◎ ポスト・グローバル化時代の教育の枠組み

劉麗鳳

〔中国農村部の子どもたちはなぜ学校を中退するのか(急激な経済成長・都市と農村間格差の拡大) (二元化社会・賤農主義・農耕問題)―学校教育の可能性を考える〕

# 中学中退

Since 1992 教育学年報 [第三期]

## 「11」教育研究の新篇章

編集委員 下司晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下誠 5000円

## 「12」国 家

編集委員 青木栄一・丸山英樹・下司晶・濱中淳子・仁平典宏・石井英真 3400円

## 「13」情報技術・AIと教育

編集委員 石井英真・仁平典宏・濱中淳子・青木栄一・丸山英樹・下司晶 3600円

福元真由美

## 都市に誕生した保育の系譜

◎ アンシエーション・リズムと郊外のユートピア 3500円

石戸典嗣  
現代教育のシステム論  
◎ ルーマンの構図 2300円

永田佳之 編  
変容する世界と日本のオルタナティブ教育  
◎ 生を優先する多様性の方へ 5800円

高宮正貴  
J・Sミルの教育思想  
◎ 自由と平等はいかに両立するのか 3000円

林潤平  
自然愛をめぐる教育の近代日本  
◎ 自然観の創出と変容の一系譜 3500円

日本教育学会教育勅諭問題ワーキンググループ編  
教育勅諭と学校教育  
◎ 教育勅諭の教材用図をどう考えるか 2400円



世織書房

〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176 / FAX045-319-0644  
seori@nifty.com http://seorishobo.com (税抜)

## 教育グローバル化のダイナミズム

—なぜ教育は国境を越えるのか

ジョエル・スプリング著

A5・360頁・3960円

監訳 北村友人

翻訳者代表 山田雄司・鈴木耕平

地球世界は、経済の国際化により1つにつながって久しい。今日の物流の世界化がインターネットによってより加速させられる中、国際企業と国際機関から教育の企業化が進められ、グローバルに通用する人間のスキルが求められた。OECDをはじめ国際組織の教育戦略の実態を追うとともに様々な教育問題を包括的に考える優れた時宜を得た書。



## 完全性概念の基底

—ヨーロッパの教育概念史

田中智志著 A5・562頁・6380円

人間が生きる上で欠かせないのは、他者と共生し、分かち合うことで得られる生の満喫であり、それらを通じて行われる「存在」の証明である。本書は人間が求める「完全性概念」の深淵を探り、現代まで継承されたヨーロッパ近代教育思想まで分かりやすく前『人格形成概念』『社会性概念』の概念史を辿った完結編。



## 「学習成果」可視化と達成度評価

早田幸政編著 大学基準協会監修 A5・424頁・4180円

## アメリカ高等教育史

R・L・ガイガー著 原圭寛他訳 A5・744頁・9460円

## 美術鑑賞学習における思考の可視化と深化

石崎和宏・王文純著 A5・296頁・4730円

## オープン・エデュケーションの本流

橘高佳恵著 A5・240頁・4730円

## 米国シカゴの市民性教育

久保園梓著 A5・240頁・4730円

## 米国の特殊教育における教職の専門職性理念の成立過程

志茂こづえ著 A5・312頁・4730円

## ASEAN諸国の学校に行けない子どもたち

乾美紀編著 A5・208頁・2200円

## オンラインリテラシー時代と読解リテラシーの葛藤

福田誠治著 A5・168頁・1980円

## 過疎地の特性を活かす創造的教育

村田翼夫・山口満編著 A5・168頁・1980円

## 人生100年時代に「学び直し」を問う

今津孝次郎・加藤潤編著 A5・248頁・2970円

## 企業が求める〈主体性〉とは何か

武藤浩子著 A5・224頁・3520円



〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6  
HP <http://www.toshindo-pub.com>  
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514  
✉ toshindo.onlinedorder1985@gmail.com  
tk203444@fsinet.or.jp (代表)

\* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで!

小山静子 四六判上製368頁税込3850円 ISBN978-4-326-65441-3  
高等女学校と女性の近代  
女性が高等女学校で教育を受ける意味とは何か、史料を織りこみ描出する。

山名 淳 編著 A5判上製344頁税込4400円 ISBN978-4-326-25167-4  
記憶と想起の教育学  
「メモリー・ペダゴジー」、教育哲学からのアプローチ  
記憶と想起は、教育および人間形成とどうかわるのかを多角的に検討。

佐藤隆之・上坂保仁 編著

A5判並製240頁税込2530円 ISBN978-4-326-25170-4  
市民を育てる道徳教育  
「市民」が生活で直面する問題をどう生かすかを考えるためのテキスト。

松下佳代・前田秀樹・田中孝平

B5判並製176頁税込1980円 ISBN978-4-326-25164-3  
対話型論証ですすめる探究ワーク  
各教科の「探究」や「総合的な探究の時間」で活用できるワークブック。

豊永耕平

A5判上製432頁税込5940円 ISBN978-4-326-25169-8  
学歴獲得の不等等 親子の進路選択と社会階層  
高校生と親の調査から、教育選択の格差が生じるプロセスを解明する。

数実浩佑

A5判上製240頁税込3960円 ISBN978-4-326-25168-1  
学力格差の拡大メカニズム  
格差是正に向けた教育実践のために  
「マタイ効果」を参照しつつ学力格差の拡大メカニズムを分析する。

稲井智義

A5判上製272頁税込6050円 ISBN978-4-326-25166-7  
子ども福祉施設と教育思想の社会史  
石井十次から富田象吉、高田慎吾へ  
子ども福祉の思想を歴史的に辿り、公教育と福祉の関係／役割をとらえ直す。

園山大祐 監修・監訳 A5判上製448頁税込5500円 ISBN978-4-326-60354-1  
教師の社会学 フランスにみる教職の現在とシンダー  
日仏の教師教育における課題を検討。日本の教育施策への示唆とは何か。

山田真由美

A5判上製272頁税込5500円 ISBN978-4-326-25165-0  
京都学派の教育思想 歴史哲学と教育哲学の架橋  
木村素衛と高坂正顕の教育思想を分析しつつ、京都学派の教育思想を論じる。

\*表示価格は10%税込



勁草書房

https://www.keisoshobo.co.jp

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

【編集復刻版】

### 大正新教育 学級・学校経営重要文献選

体裁=全10巻・A5判・上製・総4,026頁  
全3回配本 揃価格=247,500円  
編集・解説=橋本美保・遠座知恵 推薦=天笠茂・佐藤学  
全2期・全3回配本 揃価格=198,000円

戦後改革期

【編集復刻版】水原克敏 編・解説

### 文部省実験学校資料集成

〈第1期〉全9巻 体裁=A4判・上製・総3,994頁  
全3回配本 揃価格=247,500円  
〈第2期〉全6巻 体裁=A4判・上製・総2,504頁  
全2回配本 揃価格=165,000円  
〈第3期〉全3巻 体裁=A4判・上製・総1,228頁  
揃価格=82,500円

【編集復刻版】

### 占領期報徳運動資料集成

体裁=全10巻・A4/A5判・上製・総約4,400頁  
編集・解説=見城梯治・須田将司 刊行のことは=鷺山恭彦  
推薦=落合功・奈良岡聡智  
全3回配本 揃価格=222,200円

【復刻版】中央教化団体連合会 発行 (1930~44年)

### 教化運動

体裁=全6巻・別冊1・B4判・上製・総約2,690頁  
解説=須田将司 推薦=井上寿一・前田一男・米田俊彦  
全2回配本 揃価格=187,000円

【復刻版】沖縄文教部 / 琉球政府文教局 発行 (1946~72年)

### 文教時報

体裁=全18巻・付録1・別冊1・A4/B5/A5判・上製・総9,964頁  
編集・解説=藤澤健一・近藤健一郎  
全6回配本 揃価格=431,200円

### 幼児教育資料アーカイブシリーズ

幼児教育資料アーカイブ3【編集復刻版】

### 幼小接続資料集成

戦後から2010年代にいたるまで、さまざまに試みられた幼児教育と小学校教育との連携と実践の記録を、「幼小接続」という視点から初めて本格的に集成。

体裁=全7巻・別冊1・A4判2面付・上製・総約4,800頁  
別冊=解説・総目次・索引 編集・解説=太田素子・小玉亮子・福元真由美・浅井幸子・大西公恵  
推薦=汐見稔幸・無藤隆  
全3回配本 揃価格=162,800円

幼児教育資料アーカイブ2【編集復刻版】

### 戦前期愛育会関係資料集成

三田谷啓、倉橋惣三、青木誠四郎ら、社会事業、保育、公衆衛生、心理学等、多方面の第一人者が横断的に協力し、母子保護運動を全国的に展開、都市部から農村にまで大きな影響を及ぼした愛育会の全貌が明らかに！

体裁=全11巻・B5判2面付・上製・総5,698頁  
編集・解説=湯川嘉津美 推薦=網野武博・穴戸健夫  
全4回配本 揃価格=242,000円

幼児教育資料アーカイブ1【編集復刻版】

### 関西連合保育会雑誌

戦前期関西における幼児教育の実態を伝える『京阪神連合保育会雑誌』。その幻の後継誌「関西連合保育会雑誌」をついに復刻！

体裁=全2巻・B5判・上製・総1,052頁 解説=湯川嘉津美  
揃価格=39,600円

## 新刊 幼児教育資料アーカイブ4【編集復刻版】 子供の教養 全10巻・別冊1

体裁=全4判4面付・上製・総約3,800頁 別冊=解説・総目次・索引 解説=福元真由美  
推薦=太田素子・広井多鶴子 全3回配本 揃価格=277,750円  
大正新教育の影響が色濃く1929年から、戦中の中断を経て、戦後1953年まで刊行された幻の月刊誌を復刻！大正期以降勃興するホワイトカラーの父母たちの期待を受け、日本全国、そして朝鮮、台湾へと広くその読者層を広げた本誌は、幼児教育の現在と近代家族の在り方、戦前期の児童文化研究に新たな光をあてる。

不二出版

〒112-0005 東京都文京区水道2-10-10 http://www.fujishuppan.co.jp  
TEL03(5981)6704 FAX03(5981)6705 administrator@fujishuppan.co.jp

価格税込10%  
目録・見本呈